#57

#57

P. O. F. I. LIBRARY
MAY 12 1959
FISH & [illegible]ICE

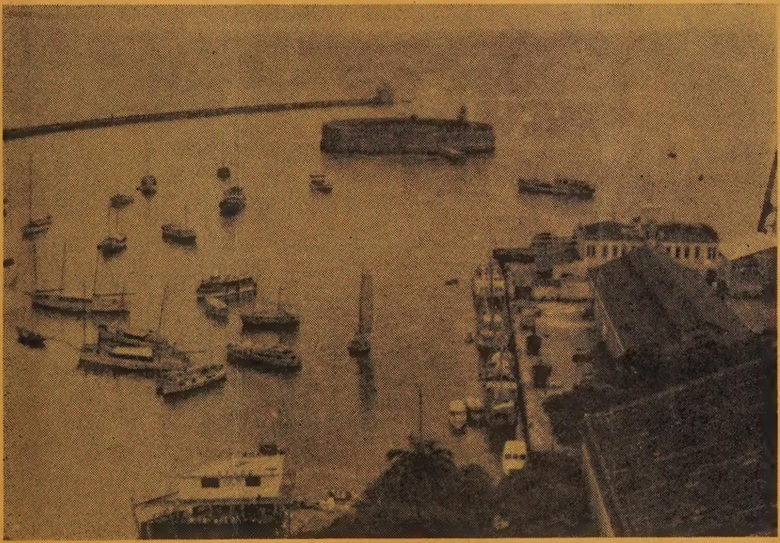
May 58 operations

NTWS

鮪漁業 第五十七号 昭和三十四年四月十日発行 （毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

鮪漁業

TUNA FISHING



大西洋鮪漁業基地バイヤ港（ブラジル）の一部

鮪漁業研究会

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNA FISHERY JAPAN

No. 57, 1959

April

光電の方探

Kodenのロラン

株式会社 光電製作所

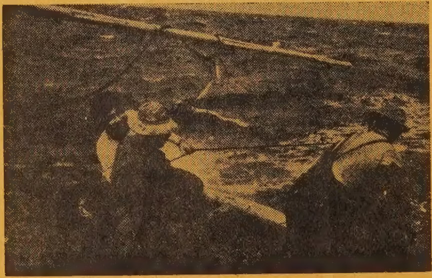
東京都品川区上大崎長者丸284
電話白金(44)代表１１３１～７番

Koden Electronics Co. Ltd.

倉敷
ビニロン

クレモナ 万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網



くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　　社　大阪市北区梅田２（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町２の４

目次

鮪漁船紹介　加能丸　第68大栄丸

鮪漁場図　（昭和33年5月操業）

1958年5月に於ける鮪漁場の漁況と海況（依託調査船140隻の資料に依る）
(Fishing and Sea Conditon of Tuna Fishing Grounds in May 1958)……………… 1

1. 調査の概要 ……………………………………………………………………………… 1

2. 漁況の概要 ……………………………………………………………………………… 1

3. 各海区の漁況と海況 …………………………………………………………………… 2

A．赤道以北140°W以東の漁場………2

B．赤道以南140°W以東の漁場………2

C．赤道以北180—140°Wの漁場 …… 3

D．赤道以南180—140°Wの漁場 …… 4

E．北部太平洋漁場……………………4

F．旧南洋庁沿海漁場…………………5

G．ソロモン以南漁場…………………6

H．西太平洋漁場………………………6

I．東部印度洋漁場……………………7

J．中西部印度洋漁場…………………8

K．大西洋漁場…………………………9

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和33年5月操業分）別表1 ……………………………10

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和33年5月操業分）別表2 ……………………………12

マグロ漁況概況予報（昭和34年5月）……………………… 神奈川県水試遠洋資源係 ………19

大西洋赤道付近に於ける日本マグロ延縄漁船の稼動状況
海流及びキハダ、ビンナガの漁況………………………………………… 神奈川県水産試験場…21

（続）素人の観た三崎港……………………………………………………… 岩吉松之助…25

海のおとぎばなし ……………………………………………………… まえだ ひろし…27

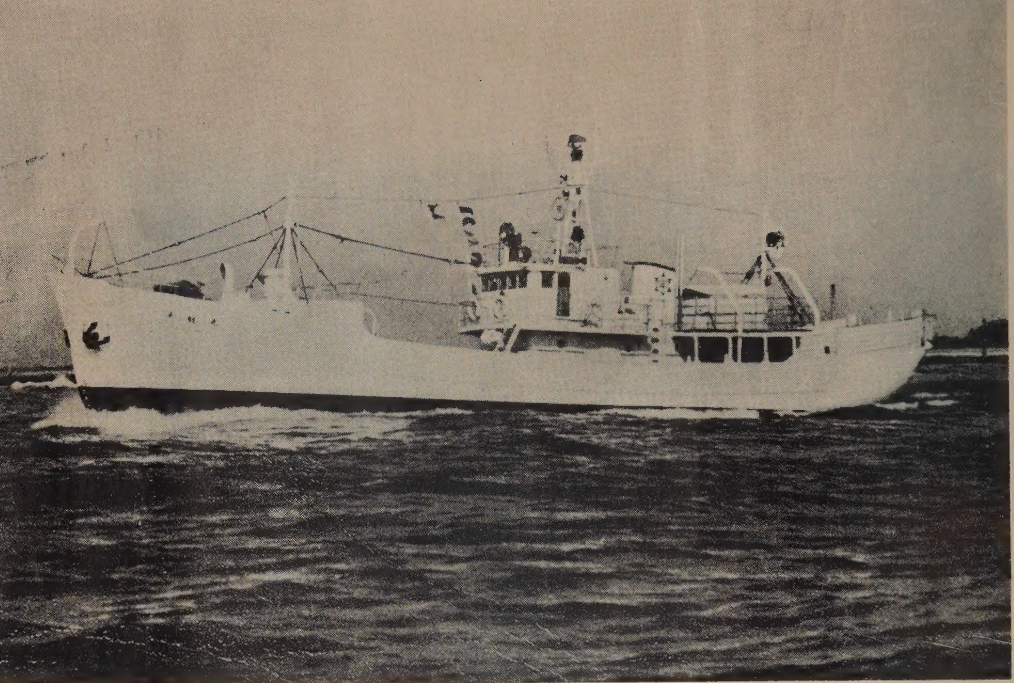
鮪類水揚価格表（三崎）昭和33年12月、34年1月、2月……………………………………28

—表紙写真　相模丸提供—

鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社　三保造船所

本　社　静岡県清水市三保3797　電話清水(2)代表2201番
東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705　電話　千代田（27）5522. 6775. 9761番



加能丸

船主　石川県

造船所　山西造船鉄工所

主要寸法		長29.00m×幅6.00m×深2.90m
総屯数		152.26屯
魚艙容積		80m³
燃料油艙		54m³
速力		最大　10.70節
主機	デーゼル330HP	1基
補機	デーゼル 75HP	1基
無線	150W，50W（日本無線）	各1基
冷凍装置	フレオン F12 直膨式 15HP(大阪金属)	1基
レーダー，ローラン（日本無線）魚探（海上電機）其の他		各1式
竣工		昭和32年3月31日

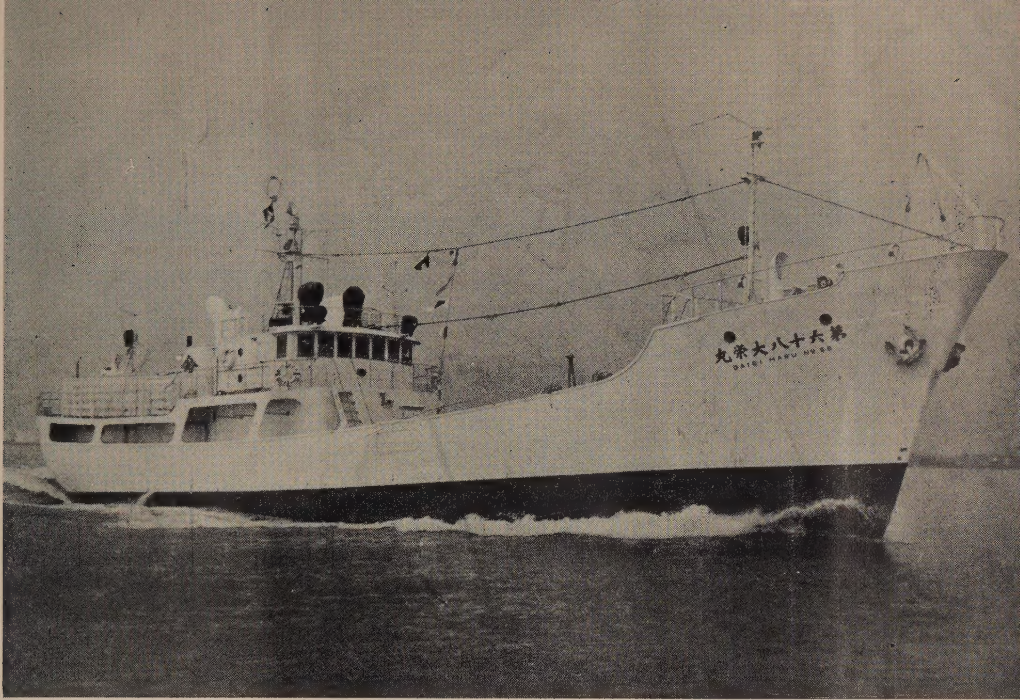
漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　社　大阪市北区中之島3の3　（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736―7（直通）
大代表(23)9531(朝日ビル交換台)
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水（2）3507
三崎サービスステーション三浦市三崎町西野34金指造船所三崎出張所内TEL.三浦2851

施工船名

- 第68大栄丸
- 耕洋丸
- 第25福吉丸
- 第1新南丸
- 第1全功丸
- 茨城丸
- （其の他約五百隻）



第 68　大 栄 丸

船主	吉井一良（石川県押水町）	
造船所	株式会社　金指造船所	
主要寸法		長37.34m×幅6.80m×深3.35m
総屯数		249.72屯
魚艙容積		234m³
燃料油艙		142m³
速力		最大　11.50節
主機	デーゼル650IP（新潟鉄工）	1基
補機	デーゼル80IP（ヤンマー）	2基
無線	200W，75W（日本無線）	各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式　6″×7″	2基
レーダー，ローラン（日本無線）方探（光電） M.C.P.（東京計器）音測兼魚探　ラジオブイ其の他		各1式
竣工		昭和33年11月2日

各種鋼製漁船の建造並に修理

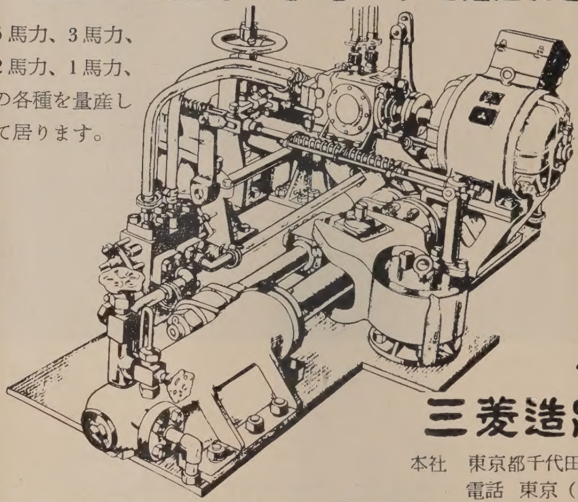
株式会社　金指造船所

本社工場　清水市三保4010—19　電話　清水(2)4111〜5
塚間工場　清水市三保弁天492　電話　清水(2)5151〜2
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話　芝(59)1306〜8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話（三浦）2851

漁船用

三菱 小型 ジャネー式 電動油圧 舵取装置

5馬力、3馬力、2馬力、1馬力、の各種を量産して居ります。



商船及び艦艇用として多年絶対的信用を博している三菱ジャネー式舵取装置を漁船用として小型化したもので既に数拾台以上が漁船に取付けられ好評を得て居ります。

三菱造船株式會社

本社　東京都千代田区丸ノ内2の4（三菱本館）
電話　東京（28）代表5111. 3111. 0331

JRC 漁船用無線装置

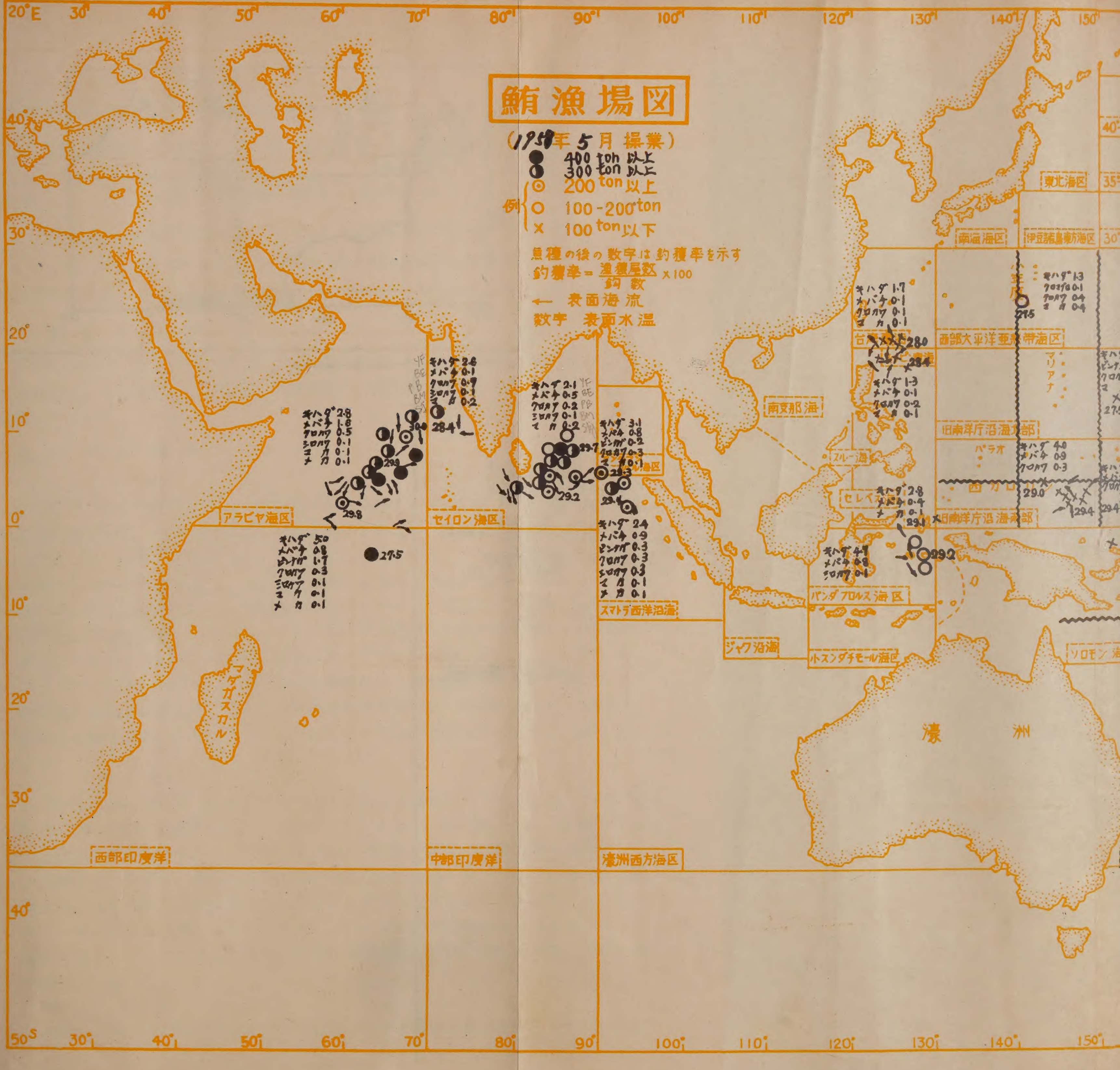
常に新しい研究と最高技術に輝く

日本の誇り
国産レーダー
漁場の測定に
ロラン受信機
安全航海に
気象模写受信装置

定評ある送信機
優秀な受信機
新設計の船内拡声装置
超小型魚群探知機

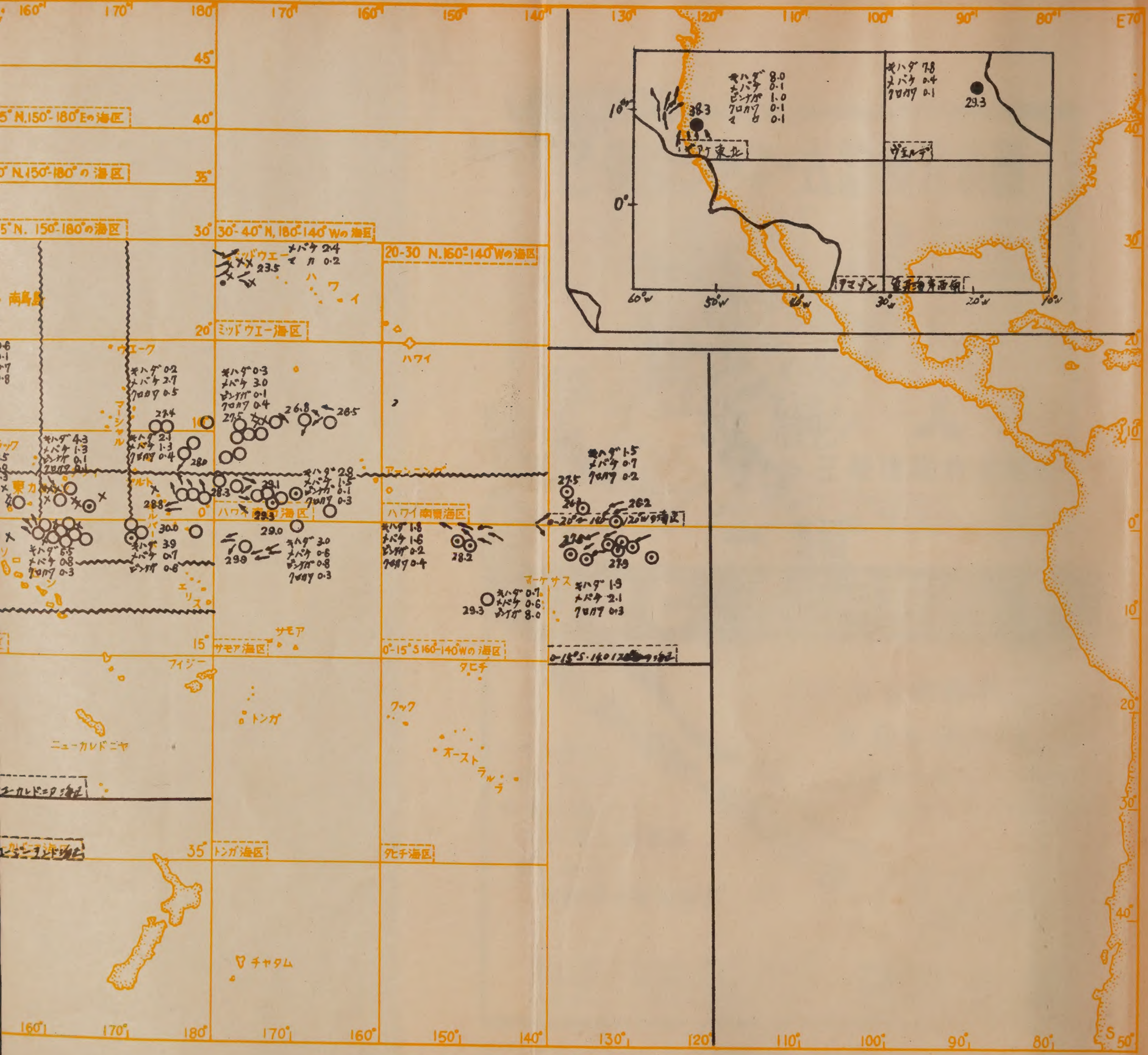
JRC
日本無線

本社・工場　東京都三鷹市上連雀930
東京営業所　東京都渋谷区千駄ヶ谷4の693
大阪支社　大阪市北区堂島中1の22


鮪漁場図

（1958年5月操業）

● 400 ton 以上
◐ 300 ton 以上
例 ⊙ 200 ton 以上
○ 100-200 ton
× 100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率＝漁獲尾数／釣数 ×100
← 表面海流
数字 表面水温
20°E
30°
40°
50°
60°
70°
80°
90°
100°
110°
120°
130°
140°
150°
40°
30°
20°
10°
0°
10°
20°
30°
40°
50°S
東北海区
南海海区
伊豆諸島東方海区
35°
30°
40°
台湾
南支那海
スルー海
セレベス海
バンダ フロルス海区
小スンダチモール海区
ジャワ沿海
スマトラ西洋沿海
アンダマン海区
アラビヤ海区
セイロン海区
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
西部太平洋亜熱帯海区
小笠原
マリアナ
パラオ
旧南洋庁沿海北部
旧南洋庁沿海南部
西カロリン
ソロモン海
マダガスカル
濠洲
キハダ 2.8
メバチ 1.8
クロカワ 0.5
シロカワ 0.1
マカ 0.1
メカ 0.1
キハダ 2.8
メバチ 0.1
クロカワ 0.7
シロカワ 0.1
マカ 0.2
YF
BE
PB
BM
ST
30.0
28.4
29.8
29.8
キハダ 5.0
メバチ 0.8
ビンナガ 1.7
クロカワ 0.3
シロカワ 0.1
マカ 0.1
メカ 0.1
27.5
キハダ 2.1
メバチ 0.5
クロカワ 0.2
シロカワ 0.1
マカ 0.2
YF
BE
PB
BM
SW
29.7
29.2
キハダ 3.1
メバチ 0.8
ビンナガ 0.2
クロカワ 0.3
マカ 0.1
29.3
29.4
キハダ 2.4
メバチ 0.9
ビンナガ 0.3
クロカワ 0.3
シロカワ 0.3
マカ 0.1
メカ 0.1
キハダ 1.7
メバチ 0.1
クロカワ 0.1
マカ 0.1
28.0
28.4
キハダ 1.3
メバチ 0.1
クロカワ 0.2
マカ 0.1
キハダ 1.3
クロマグロ 0.1
クロカワ 0.4
マカ 0.4
27.5
キハダ 4.0
メバチ 0.9
クロカワ 0.3
キハダ 2.8
メバチ 0.4
メカ 0.1
29.1
29.0
29.4
29.4
27.5
キハダ 4.7
メバチ 0.8
シロカワ 0.1
29.2



160° 170° 180° 170° 160° 150° 140° 130° 120° 110° 100° 90° 80° E70°
45°
5° N.150°-180°Eの海区
40°
0° N.150°-180°の海区
35°
5° N. 150°-180°の海区
30°
30°-40° N, 180°-140° Wの海区
20-30 N.160°-140°Wの海区
南鳥島
ミッドウエー
メバチ 2.4
マカ 0.2
23.5
ハワイ
20°
ミッドウエー海区
ハワイ
ウエーク
キハダ 0.2
メバチ 2.7
クロカワ 0.5
キハダ 0.3
メバチ 3.0
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.4
マーシャル
27.4
27.5
26.8
28.5
10°
キハダ 4.3
メバチ 1.3
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.1
キハダ 2.1
メバチ 1.3
クロカワ 0.4
28.0
東カロリン
ギルバート
キハダ 2.8
メバチ 1.5
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.3
アメニング
28.8
28.3
29.1
0°
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
29.3
29.0
30.0
キハダ 6.5
メバチ 0.8
クロカワ 0.3
キハダ 3.9
メバチ 0.7
ビンナガ 0.6
29.9
キハダ 3.0
メバチ 0.6
ビンナガ 0.8
クロカワ 0.3
キハダ 1.8
メバチ 1.6
ビンナガ 0.2
クロカワ 0.4
28.2
キハダ 1.5
メバチ 0.7
クロカワ 0.2
27.5
26.0
26.2
0-20°N 140-120°Wの海区
27.8
27.9
マーケサス
キハダ 0.7
メバチ 0.6
ビンナガ 8.0
29.3
キハダ 1.9
メバチ 2.1
クロカワ 0.3
ソロモン
エリス
サモア
15°
サモア海区
0°-15°S 160°-140°Wの海区
0-15°S.140-120°Wの海区
フィジー
タヒチ
トンガ
クック
ニューカレドニヤ
オーストラル
ニューカレドニア海区
35°
トンガ海区
タヒチ海区
ニュージーランド海区
チャタム
キハダ 8.0
メバチ 0.1
ビンナガ 1.0
クロカワ 0.1
マグロ 0.1
38.3
ギアナ東北
キハダ 7.8
メバチ 0.4
クロカワ 0.1
29.3
ヴェルデ
10°
0°
アマゾン
赤道海流西部
60°W 50°W 40°W 30°W 20°W 10°W
40° 30° 20° 10° 0° 10° 20° 30° 40° S50°
160° 170° 180° 170° 160° 150° 140° 130° 120° 110° 100° 90° 80°

1958年・5月に於ける鮪漁場の漁況と海況

（依託調査船140隻の資料に依る）

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in May 1958

(By the data collected from the 140 appointed boats)

1 調査の概要

1958年5月分として調査を実施した鮪延縄漁船は、4月よりやや減少して総数140隻その内譯は、三崎50隻、東京66隻、燒津24隻で、体長測定船は36隻であつた。調査海区数は23である。

2 漁況の概要

（キハダ）

0—20°N, 140—120°Wの海区は好漁期であるが低く、0—15°S, 140—120°Wの海区は好漁後期で好漁、ハワイ南西海区 5°N以北はまだ低率、同海区 5°N以南は春の好漁0—15°S, 160—140°Wの海区では、この海区としては不漁、サモア海区は好漁、西部太平洋140—150°Eでは好漁が得られ、南洋北部は低く、南部諸海域は高い。ソロモン北部においても高率が得られ、台湾東海およびフイリピン東海北部は、西部太平洋140—150°Eと同程度の率、バンダ・フロレス海区では急増して極めて高率となつた。アンダマン・ニコバルは4月と同様に高率、スマトラ西岸沿海においてはやや好漁である。セイロン海区においては、本年1月以來僅かづつ増加がみられているが、昨年までの好漁に比較すれば低率、アラビア海区は好漁前期にあつて増加を始め、西部印度洋海区は北部で高率、大西洋のヴエルデ、ギアナ東北の両海区においては好漁であつた。

（メバチ）

0—20°N, 140—120°W の海区においては、4月から激減して不漁となり、0—15° S 140—120°W の海区は低率に向いつつあり、ミッドウエーは好漁、ハワイ南西 5°N 以北および以南も好漁期である。0—15°S, 160—140°W の海区は好漁前期で高率となりサモア海区はやや好漁、南洋北部170°E 以東はなお好漁期にあつて高い。南洋南部諸海域はいづれも中程度の漁であり、バンダ・フロレス海区においては低率、アンダマン・ニコバル海区は上昇しつつあるようで、スマトラ西岸沿海は低率である。セイロン海区も低く、アラビア海区、西部印度洋はやや好漁、大西洋のヴエルデ、ギアナ東北両海区は不漁である。

（ビンナガ）

0—15°S, 160—140°W の海区は好漁となり、サモア海区北部は低く、ソロモン海区

では、北東部でサモア海区程度の低率、スマトラ西岸沿海は好漁後の低率、アラビア海区は好漁期であるが低く、西部印度洋海区はやや好漁、ヴエルデ海区は不漁、ギアナ東北海区はやや好漁であつた。

（クロカワ）

0—20°N, 140—120°Wの海区および0—15°S, 140—120°Wの海区は低率となり、ハワイ南西海区5°N以北は上昇前、5°N以南も好漁に向いつつあり、0—15°S, 160—140°Wの海区はサモア海区と同程度の低率、南洋北部および南部は好漁期に入つて高率となりつつある。アンダマン・ニコバル海区およびスマトラ西岸沿海北部は低く、セイロン海区は西北部が高く、アラビア海区においては急減がみられた。

（マカジキ）

ミッドウエー海区は好漁となり始め、西部太平洋140—150°Eの海域において高率、南洋北部の150—160°Eの海域でも好漁が得られている。

3　各海区の漁況と海況

A. 赤道以北140°W以東の漁場

（0—20°N, 140—120°Wの海区）

5月におけるこの漁場の調査船は、0—20°N, 140—120°Wの海区の3隻で、0—5°N 130—140°Wの海域を主漁場として操業している。漁場の平均水温は、4月に比較して2°程低下している。

（キハダ）

この海区のキハダは好漁期にあるが、昨年の高率は得られぬ模様で、5月は4月とほとんど変らず1.49, 赤道附近が5°N附近よりやや高率であつた。

（メバチ）

メバチは、4月に高率を示していたが、これは一時的な現象と思はれ、5月は急減して0.71, 今後は夏季の好漁に向うであろう。

（クロカワ）

この海区のクロカワは、30年末以来比較的低率が続いていたが、4月に0.48とやや高率が得られ、5月に入つては0.23と半減した。以后当分の間、好漁は望めないであろう。

B. 赤道以南140°W以東の漁場

（0—15°S, 140—120°Wの海区）

この漁場では、0—15°S, 140—120°Wの海区で4月に続いて7隻が調査された。その操業海域は、4月より北西寄りである。海流は、漁場圖に見るように、おおむね西流であり、漁場水温は4月と変化ない。

（キハダ）

キハダは、すでに好漁後期にあるものと思われるが、海区北西部で1.94の高率が得られている。6月には低下するであろう。

この海区のキハダは、4月と同様に大型であつて、モードにも変化はみられない。

（メ　バ　チ）

3, 4月の高率から減少して2.10を示し、この海区としてはやや好漁の程度となつたが、まだ好漁期にあるものと推察され、なお、高率が続くであろう。

魚体は、従来同様に大型であり、161—170cmのモードにも変化はみられない。

（ビ　ン　ナ　ガ）

0—5°Sの海域においては周年低率、漁場が北寄りとなつた5月は、4月0.32よりさらに低下して0.02の不漁である。

（ク　ロ　カ　ワ）

クロカワは、4月の好漁から低下して、2月と同率0.34を示した。この海域のクロカワは、夏まで低減過程にあり、当分低率が続くであろう。

C. 赤道以北180—140°Wの漁場

（ミッドウエー海区、ハワイ南西海区5°N以北、ハワイ南西海区5°N以南）

ミッドウエー海区における調査船は5隻、海区北西部のミッドウエー附近で操業していて、漁場は4月より北上している。ハワイ南西海区5°N以北では、4月と同様の漁場で13隻が調査されて、船数は4月より半減、同海区5°N以南においては、調査船が増加して8隻であつた。海流、漁場平均水温については、漁場圖を參照されたい。

（キ　ハ　ダ）

ミッドウエー海区のキハダは周年低く、ハワイ南西5°N以北の海域は、好漁期前で漸次増加を始め、5°N以南は好漁期で高率である。

ハワイ南西海区におけるキハダの体長組成は、5°N以北では調査尾数が少いが、傾向は4月に変らず、5°N以南では、121—130cmにモードがあつて、3月と同様の組成がみられた。

（メ　バ　チ）

ミッドウエー海区は、冬の好漁期を過ぎたが、北西部で2.39と極めて好漁、ハワイ南西海区5°N以北は、好漁末期であるがまだ高率で2.95を示し、5°N以南の海域では1.48, この海区としては好漁が続いている。

ハワイ南西海区5°N以北および以南の体長組成は同形、ともに山は131—140cmにあり、比較的小型となつた。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ミッドウエー海区では、3月から不漁期に入つて5月にはほとんど漁獲がない。

（クロカワおよびマカジキ）

ハワイ南西海区5°N以北の海域は、0.27で4月と同様の漁況である。6月には、釣獲率の増加がみられて、夏季から秋季にかけての盛漁に向うであろう。同海区5°N以南の海域は、以北より低率であるが、5月は0.27と4月より上昇している。

マカジキは、ミッドウエー海区において漸次増加の傾向にあり、5月は0.17となつた。夏に向つてさらに増加のみこみである。

ハワイ南西海区5°N以北のクロカワは、4月と同様の体長組成であり、5°N以南では、141—150cmに山があつて、181cm以上の魚体はみられず、はるかに小型であつた

D. 赤道以南180—140°Wの漁場

（0—15°S, 160—140°Wの海区、サモア海区）

0—15°S, 160—140°Wの海区においては、1—4°S, 151—148°Wの海域で2隻、その南方のマーケサス西側で1隻、計3隻を調査し、サモア海区では、4月と同様に海区北西部が漁場となつているが、調査船は非常に減少して2隻であるに過ぎない。水温および海流については、漁場圖を參照されたい。

（キ　ハ　ダ）

0—15°S, 160—140°Wの海区におけるキハダは、北部と南部で漁況に差がみられ、北部の赤道附近は1.84, 南部のマーケサス西方は0.66と低く、3月の好漁から減少して、この海区としては低率となつている。サモア海区の2隻は、赤道附近で操業した1隻が2.17, 180°線に近い2—5°Sの海域で操業した1隻は3.44を示し、好漁期にあつて高率である。

0—15°S, 160—140°Wの海区のキハダは、他海区に比較して大型で151—160cmのものが38.1%, サモア海区では、131—140cmにモードがみられて、2月以来変化なく小型である。

（メ　バ　チ）

0—15°S, 160—140°Wの海区におけるメバチは、赤道附近が高く1.60, マーケサス西方では0.61の低率、海区平均は1.27で、この海区としては好漁の盛期にある。サモア海区北部の2隻は、4月と同率で0.63, この海区としては中程度の漁況である。

0—15°S, 160—140°Wの海区の体長測定調査尾数は極めて少く、サモア海区も少数であるが、おおむね4月と同様の組成である。

（ビ　ン　ナ　ガ）

0—15°S, 160—140°Wの海区マーケサス西方では、ビンナガの好漁があり、8.03と非常な高率、北部では0.22と低い。サモア海区北部海域では0.76, 4月より僅か高くなつている。

（ク　ロ　カ　ワ）

0—15°S, 160—140°Wの海区北部の赤道附近では、2月3月とほぼ等しく、釣獲率0.42を示して、最近のこの海区としてはやや好漁である。南部のマーケサス西方海域における漁獲は皆無であつた。サモア海区のクロカワは北部海域で好漁期に入つていたが、4月の0.35から5月は0.26と低下、不漁期となるようである。

体長組成は、0—15°S, 160—140°Wの海区では、大型魚から小型魚まで広く漁獲されて、151—160cmに山があり、サモア海区も同様であるが、131—140cmに山があつてさらに小型である。

E. 北部太平洋漁場

（西部太平洋亜熱帯海区170°E以西）

この漁場における調査船は、西部太平洋140—150°Eの海域の1隻のみで、調査船数は4月より激減している。この1隻は、硫黄島附近で操業している。

（キ　ハ　ダ）

西部太平洋140—150°Eの海域、硫黄島附近のキハダは、1.33の高率を示し、この海区としては極めて好漁であつた。

（メバチ●クロマグロ）

この漁場のメバチは極めて不漁、0.04であるに過ぎず、クロマグロが0.05と僅かながら漁獲されている。

（クロカワ●マカジキ）

硫黄島近海におけるクロカワは、0.38でやや好漁、マカジキは、4月の同海域北部漁場における高率より半減したが、0.43で好漁である。

西部太平洋140°E,硫黄島附近のクロカワの魚体は小型、体長測定尾数は僅かであつたが151—160cmに山があり、31.4%を占めている。同海域のマカジキも小型である。

F. 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海北部、同南部）

南洋北部170°E以東の海域では、10°N線附近で3隻、170°E以西では、150—160°Eの海域中央部西寄りで1隻、南洋南部170°E以東では、5°N以北で2隻、5°N以南で4隻、170°E以西の140—170°Eの海域においては、1—8°Nの範囲で22隻が調査され、この漁場における5月の調査船は、総計32隻であつた。

（キ　ハ　ダ）

北部170°E以東10°N線附近のキハダは0.20と低く、150—160°Eでも0.59の低率、南洋南部では、表1に示すように、全般的に好漁、特に5°N以南が高率である。

表1.舊南洋廳沿海南部におけるキハダの漁況(33.5)

	140—150°E	150—160°E	160—170°E	170°E—180°
5°N以北	0.44	—	—	0.32
5°N以南	4.30	2.52	4.33	5.12

南洋北部170°E以東の魚体は、ハワイ南西海区5°N以北よりやや小さく121—130cmにモードがみられ、北部150°E附近は更に小さく、111—120cmのものが45.8%を占めていた。南部170°E以東は北部170°E以東と同形である。南部170°E以西はやや小型であつた。

（メ　バ　チ）

南洋北部170°E以東の海域では、4月の好漁からさらに高率となり2.65, 150—160°Eの海域では、0.04と極めて低く、南部170°E以東は最も高く、150—160°Eおよび160—170°Eの海域における5°N以北の漁況は解らないが、5°N以北が以南より高率のようである。（表2）

表2.舊南洋廳沿海南部におけるメバチの漁況(33.5)

	140—150°E	150—160°E	160—170°E	170°E—180°
5°N以北	1.54	—	—	1.81
5°N以南	0.77	0.99	1.28	1.85

北部170°E以東は4月と同形で大型、南部170°E以東および150—170°Eでは3月と同形で、121—130cmにモードがみられ、比較的小型である。

（クロカワ）

北部170°E以東のクロカワは、好漁期に入つたようで0.50，北部150—160°Eの海域も0.72を示して好漁である。南部海域をみると、170°E以東は好漁で4月から増加して0.35，5°N以南が0.65で南部では高率、他海域では低い。（表3）

表3. 舊南洋廳沿海南部におけるクロカワの漁況(33.5)

	140—150°E	150—160°E	160—170°E	170—180°E
5°N以北	0.31	—	—	0.31
5°N以南	0.23	0.27	0.20	0.65

北部では170°E以東以西とも151—160cm，南部170°E以東では、141—150cmと161—170cmにモードがあつて、南部170°E以西ではやや小型の傾向にあり、141—150cmにモードがみられた。

G．ソロモン以南漁場

（ソロモン海区）

ソロモン以南漁場では、ソロモン海区の0—5°Sの海域北部で24隻が調査され、そのほとんどは、160—165°Eの範圍を主漁場として操業している。5°S以南の調査船は皆無であつた。

（キハダ）

ソロモン海区のキハダは好漁を示しつつあり、特に165°E以西では、5.45の高率であつて、3月以来の好況が續いている。東部は西部より低いが、3.94と4月よりやや高い。

体長組成をみると、0—5°Sの海域における4月の組成と同様で、111—120cmに山があり、全般的に小型である。

（メバチ）

0—5°Sの海域のメバチは、4月に續いて増加して0.77，東部は0.73，西部は0.82で海域による差はみとめられない。

体長組成は4月とおおむね同様に、121—130cmにモードがあつて、從來より大型である。

（ビンナガ）

0—5°Sのビンナガは、例年よりやや早く3月に好漁を示し、5月は既に0.12と低率期に入つた。西部海域は漁獲皆無、東部では0.62で4月とほとんど変らない。

（クロカワ）

5月の0—5°Sの海域におけるクロカワは、東部海域で漁獲なく、西部では0.32と4月より僅か增加している。

体長組成は4月とおおむね同様で、モードは141—150cmにみられ、南洋南部170°E以西と同形である。

H．西太平洋漁場

（台湾東海、フイリピン東海）

台灣東海南部20°N線附近で4隻、その南方のフイリピン東海北部および南東部でそれぞれ3隻、1隻、總計8隻を調査した。

(キハダ)

台湾東海南部のキハダは、好漁となつて1.69と高率、フイリピン東海北部のキハダも4月より増加、1.32の好漁である。フイリピン東海南東部ハルマヘラ島近海では、4月と同じく2.75の好漁が得られている。

魚体は南洋南部170°E以西、ソロモンと同じく小型のものが多く、体長組成も2海区と同様である。フイリピン東海北部では、台灣東海よりやや大きく121—130cmにモードがみられた。

(メバチ)

20°N線附近漁場は周年低率、フイリピン東海ハルマヘラ島近海のメバチは、釣獲率0.40で、東方の南洋南部海域よりやや高率であつた。

体長組成は、台灣東海およびフイリピン東海北部とも調査尾数が少かつたが、南洋南部と同形で121—130cmに山があり、他海区に比して小型であつた。

I. 東部印度洋漁場

(バンダ・フロレス海区、アンダマン・ニコバル海区、スマトラ西岸沿海海区)

バンダ・フロレス海区においては、ブル島およびセラム島附近の海区東部で3隻、アンダマン・ニコバル海区にては、南西部のニコバル諸島南方5°N, 90°E附近の1隻さらにスマトラ西岸沿海北部のアンダマン・ニコバル海区に隣接した海域で3隻、計7隻で、調査船数は4月に比較して半減している。

(キハダ)

バンダ・フロレス海区では、5月に入つてキハダの好漁があり、4月より激増して4.74の好漁となつた。ニコバル諸島南方のキハダは、4月のアンダマン・ニコバルと同率で3.13と好漁、スマトラ西岸沿海北部は、ニコバル近海より低く2.37, この海区としてはそれ程高率ではない。

体長組成をみると、バンダ・フロレス海区ではフイリピン北部と同じく、従來と異なつた大きな変化はなく、スマトラ西岸沿海も同様で1月とおおむね同形である。

(メバチ)

バンダ・フロレス海区のブル、セラム両島近海のメバチは、4月には、甚だしい低率しか得られなかつたが、5月に入つてやや上昇して0.80, アンダマン・ニコバル海区南部では、4月に比較して倍増しているが、今年は低率で0.78を示すに過ぎない。スマトラ西岸沿海北部も、ニコバル諸島南方とほぼ同率で0.93の低率である。

体長組成をみると、バンダ・フロレス海区北東部は型の大きなものが増え、151—160cmに22.9%の山があらわれ、スマトラ西岸沿海も大型となつて、141—150cmにモードがみられる。

(ビンナガ)

スマトラ西岸沿海のビンナガは不漁期にあり、北部の3隻、特に赤道附近の1隻は0.05の低率である。アンダマン・ニコバル海区では周年高率は得られず、5月は僅かに0.11であつた。バンダ・フロレス海区においても、ビンナガの漁獲には、終年みるべきものはない。

（クロカワ、その他のカジキ類）

バンダ・フロレス海区では、クロカワも周年低率で、5月は4月と同様に低く0.02を示している。アンダマン・ニコバル海区においては、4月から増加して0.28, スマトラ西岸沿海北部はニコバル南方と同じく0.26, スマトラ西岸沿海の赤道附近は、0.17で最も低い。その他のカジキ類は、いづれも各海区で不漁である。

スマトラ西岸沿海北部におけるクロカワは、大型魚から小型魚まで釣獲されていて組成のモードは151—160cmにあり、この海区中南部における従来の傾向よりみるとやや小型である。

J. 中西部印度洋漁場

（セイロン海区、アラビア海区、西部印度洋海区）

セイロン海区の調査船は、4月より半減して13隻となり、そのうち12隻は、セイロン島東方の海区中部で操業している。アラビア海区では、3月以來の漁場における調査船が増加して11隻となり、西部印度洋海区では、海区北東部で1隻のみであつた。漁場水温および海流については、漁場圖参照のこと。

（キハダ）

セイロン海区のキハダは、好漁期にあつて2.13を示し、3月から次第に上昇、アラビア海区のキハダも増加しつつあり、2.84と好漁、この海区の漁況を緯度別にみると1—10°Nは3.40, 10—15°Nは2.12で、赤道附近が海区中部より高率である。西部印度洋海区北部は、なお好漁の盛期にあつて4.96と高率、6月からは漸次低下し始めるであらう。

体長組成をみると、セイロン海区セイロン島南東部とアラビア海区南東部とは同様の組成であり、141—150cmのモードも等しく、2月以來の組成に比較してやや大型の傾向にある。

（メバチ）

メバチは、セイロン海区で3月より急減したまま、5月も0.65の低率である。西部のラカデイヴ諸島附近では全くの不漁であり、0.07を示しているに過ぎない。アラビア海区においてはおおむね好漁で、赤道附近から20°N線まで操業した各船は、平均して好漁を得ている。西部印度洋北東部は好漁前期にあり、0.83でこの海区としてはやや好漁である。

セイロン海区北東部では、4月に大型がみられたが、5月のセイロン島南東部では、151—160cmに山が移つて4月より小型となつたが、従来よりは大型である。アラビア海区は、3月4月と同形であつた。

（ビンナガ）

セイロン、アラビアの両海区は、4月に続いて不漁であり、西部印度洋海区北東部の1隻は、1.72とやや好漁である。

（クロカワおよびマカジキ）

クロカワはセイロン海区においては低率、僅かにラカデイヴ諸島附近で0.72が得られ、西方に隣接するアラビア海区中部は0.87とほぼ等しく、同海区南部は0.43とより

低率、西部印度洋海区北東部も0.34と低い。

4月のセイロン海区で好漁を示したマカジキは、5月に入つて半減して、セイロン島東方0.15, ラカディヴ諸島附近0.18となつている。

クロカワの体長組成をみると、両海区とも161—170cmにモードがあつて、2月以来の組成と変らない。

セイロン、アラビア両海区におけるマカジキも、体長組成は4月に変らず大型で、モードは同様であつた。

K. 大西洋漁場

（ヴエルデ海区、ギアナ東北海区）

5月には、ヴエルデ海区のギニア沖の1隻、ギアナ東北海区において、海区南西部のギアナ海岸北部の1隻、計2隻を調査した。ギアナ東北海区南西部における海流は、漁場圖を參照されたい。これらの海区は、まだ資料に乏しい。

（キハダ）

ヴエルデ海区中部のアフリカ東岸沿海は、7.80と高率であり、水温は28.6—30.0°Cであつた。18—19°N, 20—19°Wの海域では8.07, 8—9°N, 18°Wの海域では7.56とやや低い。ギアナ東北海区南西部も高率で8.00, 漁場水温は27.6—28.9°C, 11—12°N, 58—56°Wの海域は7.23, 5—9°N, 54—47°Wの海域では8.87の釣獲率で南東寄りに高率であつた。

（メバチ）

メバチは両海区とも低率、ヴエルデ海区は0.41を示し、ギアナ東北海区は0.14で、それぞれの海域による釣獲率の差もほとんどみられない。ヴエルデ海区では、昨年6月に17°N, 17°Wで1.12の好漁が得られていた。

（ビンナガ）

ヴエルデ海区におけるビンナガは漁獲皆無、ギアナ東北海区でも1.02と好漁ではないが、海域別にみると、10°N以北が1.59で10°N以南の0.38より高率である。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

クロカワは両海区とも不漁、ギアナ東北海区では、10°N以北0.14, 10°N以南0.13と変りなく、ヴエルデ海区は、北西方海域で0.14, 南東方海域で0.04と低かつた。その他のカジキ類はいづれも不漁である。

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

	漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数	ま	
										きはだ	めばち
	0— 20N 140—120W	0— 14N 144—130W	3	0	24.9 28.4	0° 270°	20	8,570	38,365	573 1.49	274 0.71
	0— 15S 140—120W	1— 5S 138—119W	7	2	27.0 28.5	270°	134	55,067	251,328	4888 1.94	5288 2.10
31	ミッドウエー	24— 28N 180—171W	5	0	22.0 25 1	ESE, NNW 70°, 0.5	82	45,160	152,428	63 0.04	3644 2.39
32	ハワイ南西 (5°N以北)	8— 12N 180—165W	13	3	26.3 29.6	WNW W/S	175	62,271	267,917	842 0.31	7909 2.95
30	ハワイ南西 (5°N以南)	0— 5N 179—160W	8	3	27.0 29.8	SW 0.4 N, NNW SE, ENE	137	51,379	225,086	6311 2.80	3336 1.48
	0— 15S 160—140W	1— 10S 151—144W	3	1	27.5 29.6	W/N	56	21,450	94,850	1363 1.44	1202 1.27
49	サモア	0— 5S 179—169W	2	1	28.6 30.0	WSW W	20	7,411	35,120	1047 2.98	221 0.63
35	西部太平洋 (170°E以西)	25°N 141°E	1	1	27.0 28.0	—	14	2,657	13,285	177 1.33	5 0.04
60	南洋北部 (170°E以東)	9— 12N 171E—180	3	1	26.9 27.8	—	48	15,300	62,800	128 0.20	1665 2.65
61	南洋北部 (170°E以西)	14— 15N 152—153E	1	1	26.8 28.2	—	11	2,750	11,000	66 0.59	4 0.04
36	南洋南部 (170°E以東)	0— 10N 171E—180	6	3	27.3 29.3	NNW W	88	33,088	146,092	3042 2.08	1941 1.33
37	南洋南部 (170°E以西)	1— 8N 143—169E	22	3	28.3 30.2	—	304	100,062	460,423	16911 3.67	4857 1.05
38	ソロモン	0— 5S 151—178E	24	5	28.6 30.9	—	358	134,029	637,085	32930 5.16	4898 0.77
50	台灣東海	20— 22N 123—128E	4	3	27.3 28.8	NW/W, W NW, WSW	53	14,002	63,030	1064 1.69	40 0.06
51	フイリピン	1— 2N 123—130E	4	3	27.5 29.4	WNW ENE	59	17,190	83,715	1447 1.73	141 0.17
52	バンダ フロレス	0— 7S 124—130E	3	2	28.6 29.8	NNW SE	38	18,338	76,562	3631 4.74	616 0.80
11. 57	アンダマン ニコバル	5— 7N 90— 92E	1	0	29.1 29.6	—	10	4,035	20,175	632 3.13	158 0.78
53	スマトラ 西岸沿海	0— 7N 90— 95E	3	1	28.9 30.6	N, N/E	42	17,070	71,900	1703 2.37	670 0.93
54	セイロン	3— 18N 70— 94E	13	0	27.7 31.0	—	287	114,238	619,309	13205 2.13	4055 0.65
42	アラビア	3S— 19N 58— 70E	11	3	29.2 30.6	SSW, E, ENE ESE, WSW 04-0.8	271	109,247	522,159	14808 2.84	8298 1.59
62	西部印度洋	0— 5S 60— 66E	1	0	27.2 27.8	—	31	13,491	53,964	2677 4.96	450 0.83
63	ヴェルデ	8— 19N 21— 17W	1	0	28.6 30.0	—	19	7,417	29,668	2313 7.80	122 0.41
4	ギアナ東北	5— 12N 58— 47W	1	0	27.6 28.9	NNW 0.7 N/E 1.6	28	10,486	52,430	4197 8.00	72 0.14
4	**合計**	**23**	140	36			2285	864,708	3,988,691	114018 2.86	49866 1.25

1958 May

（昭和33年5月操業分）

（別表 1 ）

まぐろ			16 かじき					22	23	24	25	26
13 びんなが	14 くろ鮪	15 いんど鮪	17 くろかわ	18 しろかわ	19 まかじき	20 めかじき	21 ばしょう	かつお	雑	さめ	計	備考
			87	4	7	3	2	41		329	1320	
			0.23	0.01	0.02	0.01	0.01	0.11		0.86		
38			856	38	74	60	17	38	528	451	12276	
0.02			0.34	0.02	0.03	0.02	0.01	0.02	0.21	0.18	4.88	
5			63	1	262	99	1		58	9	4205	
0.00			0.04	0.00	0.17	0.06	0.00		0.04	0.01	2.75	
137			1150	19	185	21	24	6	280	299	10872	
0.05			0.43	0.01	0.07	0.01	0.01	0.00	0.10	0.11	4.06	
108			603	29	6	43	25		393		10854	
0.05			0.27	0.01	0.00	0.02	0.01		0.17			
2721			260	16	10	18	4	10		88	5692	
2.87			0.27	0.02	0.01	0.02	0.00	0.01		0.09		
266			93	7	2	10	4	2			1652	
0.76			0.26	0.02	0.01	0.03	0.01	0.01				
	7		51		57	10	7		29	12	355	
	0.05		0.38		0.43	0.08	0.05		0.22	0.09	2.67	
10			314	5	1	10	22		168		2323	
0.02			0.50	0.01	0.00	0.02	0.04		0.27			
5			79	1	87	1	21	27	128	86	505	
0.05			0.72	0.01	0.79	0.01	0.19	0.25	1.16	0.78	4.59	
46			518	10		26	36		141	1	5761	
0.03			0.35	0.01		0.02	0.02		0.10	0.00	3.94	
139	2		1190	27	10	20	344	134	412	112	24158	
0.03	0.00		0.26	0.01	0.00	0.00	0.07	0.03	0.09	0.02	5.25	
750			1919	156	12	30	457	137	122	1293	42704	
0.12			0.30	0.02	0.00	0.00	0.07	0.02	0.02	0.20	6.70	
1	18		60	1	87	18	124	71	74	132	1690	
0.00	0.03		0.10	0.00	0.14	0.03	0.20	0.11	0.12	0.21	2.68	
11	21		112	8	85	25	160		454	26	2490	
0.01	0.03		0.13	0.01	0.10	0.03	0.19		0.54	0.03	2.97	
1			18	55	11	13	55		15		4415	
0.00			0.02	0.07	0.01	0.02	0.07		0.02			
23			57	9	11	2	11				903	
0.11			0.28	0.04	0.05	0.01	0.05					
190			186	57	40	60	42	43	350	342	3683	
0.26			0.26	0.08	0.06	0.08	0.06	0.06	0.49	0.48	5.12	
59			1397	380	937	268	339	83	666	267	21656	
0.01			0.23	0.06	0.15	0.04	0.05	0.01	0.11	0.04	3.50	
224			2734	294	496	256	559	933	805	918	30325	
0.04			0.52	0.06	0.09	0.05	0.11	0.18	0.15	0.18	5.81	
926			184	50	28	29	30	7	21	313	4715	
1.72			0.34	0.09	0.05	0.05	0.06	0.01	0.04	0.58	8.74	
			25			5					2466	
			0.08			0.02						
534	1		71		37		196				5107	
1.02	0.00		0.14		0.07		0.37					
6194	49		12027	1167	2445	1027	2480	1532	4644	4678	200127	
0.16	0.00		0.30	0.30	0.06	0.03	0.06	0.04	0.12	0.12	5.02	

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和33年5月操業分）

（別表2）

43 3 1 2 6 47 25 48

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm 以上		計	漁獲尾数
11	2	0—15S 140—120W	1—4S 133—125W	54	46							1 0.8		7 5.4	2 1.6	60 46.5	52 40.3	7 5.4		129 100	1828
	2 32	ハワイ南西 (5°N 以北)	8—12N 177—173W	27								1 1.8	14 24.6	27 47.4	10 17.5	5 8.7				57 100	119
	3 30	ハワイ南西 (5°N 以南)	0—3N 176—160W	50						4 0.7	38 6.4	107 18.0	166 27.9	148 24.9	96 16.2	28 4.7	5 0.8	2 0.3		594 100	3014
	1	0—15S 160—140W	1—3S 150—148W	23								4 1.8	8 3.6	18 8.1	49 22.0	85 38.1	34 15.2	25 11.2		223 100	976
き	1 49	サモア	2—5S 179—178W	13								7 2.1	41 12.3	124 37.1	100 29.9	53 15.9	8 2.4	1 0.3		334 100	774
	1 55	西部太平洋 (170°E以西)	25°N 141°E	14			1 7.7		2 15.4				2 15.4	3 23.1		1 7.7	1 7.7	3 23.1		13 100	117
	1 60	南洋北部 (170°E以東)	10—11N 172—174E	16							2 3.2	5 8.1	23 37.0	22 35.5	3 4.8	5 8.1	2 3.2			62 100	63
	1 61	南洋北部 (170°E以西)	14—15N 152—153E	11							15 25.4	27 45.8	7 11.9	9 15.3	1 1.7					59 100	66
	1 36	南洋南部 (170°E以東)	2—5N 175E—180	17							1 0.6	25 16.3	46 30.1	45 29.4	22 14.4	7 4.6		7 4.6		153 100	887
	3 37	南洋南部 (170°E以西)	1—5N 152—169E	52						21 3.3	116 18.0	239 37.0	137 21.2	101 15.6	26 4.0	5 0.8		1 0.2		646 100	3336
	3 38	ソロモン	0—4S 160—178E	59						1 0.2	80 14.4	214 38.4	133 23.9	93 16.7	25 4.5	11 2.0				557 100	4226
	2 50	台灣	20—22N 123—127E	28						11 6.7	23 14.0	57 34.8	34 20.7	26 15.9	10 6.0	3 1.8				164 100	472
は	3 51	フイリピン	18—21N 123—128E	44						6 1.9	55 17.7	67 21.6	89 28.7	72 23.8	19 6.1	2 0.6				310 100	787
	1 52	バンダ フロレス	0—7S 126—130E	14			2 0.5	4 1.0	3 0.8		9 2.3	102 25.6	118 29.6	94 23.6	40 10.1	24 6.0		2 0.5		398 100	1142
	1 53	スマトラ 西岸沿海	4—6N 90—94E	15					4 1.4	29 9.9	70 24.1	33 11.3	79 27.1	36 12.4	38 13.1	2 0.7				291 100	668

だ	6 54	セイロン	3— 13N 68— 94E	153							6 0.8	72 9.9	218 29.9	143 19.6	162 22.2	113 15.5	15 2.1			729 100	7501
	3 42	アラビア	0— 16N 59— 70E	69							2 0.9	8 3.7	20 9.3	53 24.8	73 34.1	42 19.6	13 6.0	3 1.0		214 100	3579

魚種 45	測定船数 3	漁場 1	操業位置 2	操業回数 6	60 cm 以下	61 —70	71 —80	81 —90	91 — 100	101 — 110	111 — 120	121 — 130	131 — 140	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 cm 以上		計 25	漁獲尾数
	2	0— 15S 140—120W	1— 4S 134—125W	54	46						2 0.9	11 4.7	3 1.3	26 11.2	54 23.3	64 27.6	31 13.4	41 17.7		232 100	1104
12	3 32	ハワイ南西 (5°N 以北)	8— 12N 179—166W	49					2 0.5	7 1.6	9 2.1	44 10.2	111 25.8	100 23.3	75 17.4	36 8.4	29 6.7	17 4.0		430 100	1935
	3 30	ハワイ南西 (5°N 以南)	0— 3N 176—160W	50						9 4.1	34 15.3	44 19.8	53 23.9	39 17.6	21 9.5	9 4.1	13 5.9			222 100	1105
	1	0— 15S 160—140W	1— 3S 150—148W	23								3 16.7	2 11.1	3 16.7		6 33.3	4 22.2			18 100	641
め	1 49	サモア	2— 5S 179—173W	13						6 8.6	14 20.0	13 18.6	10 14.3	11 15.7	12 17.1	3 4.3		1 1.4		70 100	134
	1 35	西部太平洋 (170°E以西)	25°N 141°E	14						1 33.3			1 33.3		1 33.3					3 100	5
	1 60	南洋北部 (170°E以東)	10— 11N 172—174E	16							5 2.9	4 2.3	35 20.2	57 32.9	36 20.8	23 13.3	8 4.6	6 3.5		173 100	567
	1 61	南洋北部 (170°E以西)	14— 15N 152—153E	11				1 25.0			1 25.0		2 50.0							4 100	4
	1 36	南洋南部 (170°E以東)	2— 5N 175E—180	17						7 3.9	25 13.8	49 27.1	32 17.7	33 18.2	16 8.8	10 5.5	2 1.1	7 3.9		181 100	437
	3 37	南洋南部 (170°E以西)	1— 5N 152—169E	52				2 0.6	3 0.9	13 3.7	62 17.8	92 26.4	72 20.7	58 16.7	32 9.2	11 3.2	2 0.6	1 0.3		348 100	1003
	2 38	ソロモン	0— 4S 165—178E	37						5 6.1	6 7.3	25 30.5	13 15.6	16 19.5	9 11.0	7 8.5	1 1.2			82 100	458
ば	2 50	台灣	20— 22N 123—127E	28							1 7.7	4 30.8	4 30.8	3 23.0				1 7.7		13 100	19
	3 51	フイリピン	18— 21N 123—128E	44					11 25.0	4 9.1	9 20.5	14 31.8	2 4.5	1 2.3	2 4.5	1 2.3				44 100	58
	1 52	バンダ フロレス	0— 7S 126—130E	14					2 1.6	6 4.9	18 14.8	13 10.7	25 20.5	24 19.7	28 22.9	5 4.0		1 0.8		122 100	148

12 ち	1	スマトラ西岸沿海	4—6N 90—94E	15				10 4.1	11 4.5	37 15.0	29 11.7	23 9.3	37 15.0	39 15.8	27 10.9	23 9.3	10 4.1	1 0.4		247 100	517
	6	セイロン	3—13N 68—94E	153						6 2.1	32 11.4	23 8.2	21 7.5	49 17.4	61 21.7	58 20.6	26 9.3	5 1.8		281 100	4002
	3	アラビア	0—16N 59—79E	69				1 0.3	1 0.3	20 5.6	23 6.5	47 13.3	65 18.4	100 28.2	54 15.3	33 9.3	10 2.8			354 100	1717

45 魚種	7 測定船数	1 漁場	2 操業位置	6 操業回数	46 40cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	110—120	121cm以上						25 計	48 漁獲尾数
13 びんなが	1 32	ハワイ南西 (5°N以北)	11—12N 177—173W	16							1 14.3	5 71.4	1 14.3							7 100	16
	1 35	西部太平洋 (170°E以西)	25°N 141°E	14							4 50.0	1 12.5	3 37.5							8 100	8
	1 60	南洋北部 (170°E以東)	10—11N 172—174E	16							1 50.0	1 50.0								2 100	2
	1 61	南洋北部 (170°E以西)	14—15N 152—153E	11							1 20.0	1 20.0	3 60.0							5 100	5
	1 52	バンダフロレス	0—7S 126—130E	14								1 100.0								1 100	1
	1 53	スマトラ西岸沿海	4—6N 90—94E	15	46					3 2.2	100 73.5	33 24.3							47	136 100	142

45 魚種	3 測定船数	1 漁場	2 操業位置	6 操業回数	130cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261cm以上	25 計	48 漁獲尾数
17	2	0—15S 140—120W	1—4S 134—125W	54				2 3.4	12 20.3	16 27.1	10 16.9	6 10.2	3 5.1	5 8.5	4 6.8		1 1.7			59 100	137
	2 32	ハワイ南西 (5°N以北)	8—12N 179—173W	27	1 1.2		8 9.6	13 15.7	27 32.5	9 10.8	7 8.4	4 4.8	3 3.6	2 2.4	4 4.8	1 1.2	3 3.6	1 1.2		83 100	257
	3 30	ハワイ南西 (5°N以南)	0—3N 176—160W	50	6 5.3	10 8.8	34 29.8	26 22.8	17 14.9	21 18.4										114 100	176
く	1	0—15S 160—140W	1—3S 150—148W	23	3 6.4	3 6.4	5 10.6	14 29.8	5 10.6	5 10.6	2 4.2	3 6.4	2 4.3	2 4.3	2 4.3	1 2.1				47 100	198
	1 49	サモア	2—5S 179—173W	13	2 4.0	10 20.0	4 8.0	2 4.0	14 28.0	3 6.0		2 4.0	4 8.0	2 4.0	2 4.0	2 4.0	1 2.0	1 2.0	1 2.0	49 100	76
	1 35	西部太平洋 (170°E以西)	25°N 141°E	14		2 3.9	15 29.4	16 31.4	14 27.5	2 3.9	1 2.0	1 2.0								51 100	51

	1 60	南洋北部(170°E以東)	10—11N 172—174E	16	1 1.0	11 11.0	18 18.0	37 37.0	10 10.0	1 1.0	6 6.0	5 5.0	4 4.0	2 2.0	2 2.0	3 3.0				100 100	101
ろ	1 61	南洋北部(170°E以西)	14—15N 152—153E	11		5 6.3	15 19.0	25 31.6	21 26.6	6 7.5	1 1.3	1 1.3		2 2.5		1 1.3	1 1.3	1 1.3		79 100	79
17	1 36	南洋南部(170°E以東)	2—5N 175E—180	17	1 2.2	3 6.5	11 23.9	8 17.4	11 23.9	4 8.7	1 2.2		3 6.5	1 2.2	2 4.3	1 2.2				46 100	128
	3 31	南洋南部(170°E以西)	1—5N 152—169E	52	27 12.4	33 15.1	50 22.9	36 16.5	35 16.1	5 2.3	4 1.8	3 1.4	7 3.2	6 2.8		1 0.5	2 0.9	2 0.9	7 3.2	218 100	224
か	4 38	ソロモン	0—5S 160E—180	92	7 4.3	20 12.4	40 24.8	39 24.2	34 21.1	6 3.7	6 3.7	2 1.2	2 1.2	3 1.9	2 1.2					161 100	501
	3 50	台灣	20—22N 123—127E	45	5 10.2	6 12.2	9 18.4	10 20.4	6 12.2		1 2.0	2 4.1	3 6.1		1 2.0	2 4.1			4 8.2	49 100	49
	3 51	フィリピン	17—21N 123—128E	44	2 1.9	8 7.6	35 33.3	32 30.5	17 16.2	5 4.8	4 3.8			1 1.0		1 1.0				105 100	105
わ	1 52	バンダフロレス	0—7S 126—130E	14					4 66.6		1 16.7		1 16.7							6 100	6
	1 53	スマトラ西岸沿海	4—6N 90—94E	15	1 1.2	4 4.7	11 13.0	28 32.9	15 17.6	8 9.4	3 3.5	4 4.7	4 4.7	2 2.4	2 2.4	1 1.2	1 1.2	1 1.2		85 100	86
	5 54	セイロン	3—13N 68—94E	129			10 3.4	17 5.7	58 19.5	52 17.5	24 8.1	38 12.8	33 11.1	28 9.4	20 6.7	7 2.4	5 1.7	4 1.4	1 0.3	297 100	761
	3 42	アラビア	0—16N 59—70E	69	9 1.8	6 1.2	38 7.5	61 12.1	164 32.5	69 13.7	48 9.5	34 6.7	28 5.5	25 5.0	11 2.2	9 1.8	1 0.2	1 0.2	1 0.2	505 100	793

45 魚種	5 測定船数	1 漁場	2 操業位置	6 操業回数	130—以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	25 計	48 漁獲尾数
	2	0—15S 140—120W	1—4S 134—125W	54	46			1 9.1	1 9.1	1 9.1	2 18.2	2 18.2	1 9.1	1 9.1	1 9.1			1 9.1	47	11 100	16
15	1 32	ハワイ南西(5°N以北)	11—12N 177—173W	16			1 50.0			1 50.0										2 100	6
	2 30	ハワイ南西(5°N以南)	0—3N 176—160W	32						1 12.5	2 25.0			1 12.5		2 25.0			2 25.0	8 100	9
し	1	0—15S 160—140W	1—3S 150—148W	23						1 12.5		1 12.5	1 12.5		1 12.5			1 12.5	3 37.5	8 100	14
	1 54	サモア	2—5S 179—173W	13		1 8.3			4 33.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3	2 16.7						1 8.3	12 100	12

18 ろ	1	60 南洋北部 (170°E以東)	10—11N 172—174E	16						2 50.0	1 25.0								1 25.0	4 100	4
か	1	36 南洋南部 (170°E以東)	2—5N 175E—180	17			1 100.0													1 100	3
	2	37 南洋南部 (170°E以西)	1—3N 152—169E	36			1 25.0	2 50.0	1 25.0											4 100	5
	4	38 ソロモン	0—4S 160—178E	59				3 50.0	1 16.7	1 16.7		1 16.7								6 100	17
わ	1	52 バンダ フロレス	0—7S 126—130E	14		1 12.5	1 12.5		1 12.5		2 25.0		1 12.5	1 12.5	1 12.5					8 100	8
	1	53 スマトラ 西岸沿海	4—6N 90—94E	15	5 8.8	8 14.0	1 1.7	9 15.8	9 15.8	3 5.3	4 7.0	4 7.0	3 5.3	3 5.3	2 3.5	1 1.7	2 3.5		3 5.3	57 100	57
	5	54 セイロン	3—13N 68—94E	129		4 0.3	15 1.2	16 1.3	3 0.2	11 8.8	15 12.0	12 9.6	20 16.0	14 11.2	5 4.0	5 4.0		4 3.2	1 0.1	125 100	199
	3	42 アラビア	0—16N 59—70E	69	1 1.3	4 5.2	5 6.5	8 10.4	2 2.6	6 7.8	10 13.0	14 18.2	6 7.8	7 9.1	5 6.5	4 5.2		2 2.6	3 3.9	77 100	115

45 魚種	3 測定船数	1 漁場	2 操業位置	6 操業回数	100 cm— 以下 44	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231— 以上 47	計 25	漁獲尾数 48
19 ま	1	0—15S 140—120W	1—4S 134—125W	24										1 16.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3			6 100	14
	3	32 ハワイ南西 (5°N以北)	8—12N 179—166W	49	6 8.1	22 29.7	20 27.0	2 2.7			21 28.4	2 2.7			1 1.4					74 100	187
	1	30 ハワイ南西 (5°N以南)	0—3N 176—171W	16				1 33.3				1 33.3		1 33.3						3 100	3
	1	0—15S 160—140W	1—3S 150—148W	23											1 33.3	1 33.3	1 33.3			3 100	7
	1	35 西部太平洋 (170°E以西)	25N 141E	14		6 6.8	14 15.9	15 17.0	26 29.5	10 11.3	7 8.0	8 9.1	1 1.1	1 1.1						88 100	88
か	1	60 南洋北部 (170°E以東)	10—11N 172—174E	16		16 94.1									1 5.8					17 100	17
	1	61 南洋北部 (170°E以西)	14—15N 152—153E	11				2 8.3	12 50.0	6 25.0	2 8.3	2 8.3								24 100	87
	1	34 南洋南部 (170°E以西)	2—5N 154—157E	16							2 40.0	1 20.0	2 40.0							5 100	5

	1	38 ソロモン	1—4S 178—165E	19										1 100.0						1 100	1
じ.	2	50 台湾	20—22N 123—126E	33		2 3.0	4 6.2	2 3.0	10 15.4	12 18.5	16 24.6	4 6.2	8 12.3	6 9.2	1 1.5					65 100	65
	3	51 フィリピン	17—21N 123—128E	44		2 2.5	5 6.3	6 7.5	14 17.5	24 30.0	17 21.3	4 5.0	6 7.5	1 1.3					1 1.3	80 100	80
	1	52 バンダ フロレス	0—7S 126—130E	14							2 40.0	2 40.0		1 20.0						5 100	
き	1	53 スマトラ西岸沿海	4—6N 90—94E	15							4 16.7	6 25.0	13 54.2	1 4.2						24 100	70
	4	54 セイロン	3—13N 72—94E	97			1 0.8		1 0.8	5 3.9	22 17.2	17 13.3	54 42.2	26 20.3	2 1.6					128 100	188
	2	42 アラビア	3—16N 59—70E	42					6 4.2	4 2.8	12 8.4	27 18.9	44 30.8	42 29.4	7 4.9	1 0.7				143 100	364

45 魚種	3 測定船数	1 漁場	2 操業位置	6 操業回数	80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上		25 計	49 漁獲尾数
20	1	0—15S 140—120W	2—4S 133—131W	30	4L						1 16.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7				47		6 100	11
	2	32 ハワイ南西 (5°N 以北)	8—12N 179—166W	33				1 14.3	1 14.3	1 14.3				1 14.3		2 28.6		1 14.3		7 100	7
め	2	30 ハワイ南西 (5°N 以南)	0—3N 176—160W	32				2 11.1		3 16.7	4 22.2	3 16.7	1 5.6	4 22.2	1 5.6					18 100	24
	1	0—15S 160—140W	1—3N 150—148E	23						1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5				1 12.5		8 100	11
	1	44 サモア	2—5S 179—173W	13							1 50.0	1 50.0								2 100	4
か	1	60 南洋北部 (170°E以西)	14—15N 152—153E	11							1 100.0									1 100	1
	1	61 南洋南部 (170°E以東)	2—5N 175E—180	17					1 25.0	1 25.0		1 25.0					1 25.0			4 100	6
じ	2	37 南洋南部 (170°E以西)	1—5N 154—169E	33					1 16.7		3 50.0		1 16.7	1 16.7						6 100	6
	2	38 ソロモン	0—4S 160—178E	40						4 80.0	1 20.0									5 100	5

20	3 51	台湾	20—22N 123—127E	45	2 14.3		2 14.3	1 7.1	2 14.3		4 28.6	1 7.1			1 7.1		1 7.1			14 100	14
き	1 52	バンダフロレス	0—7S 126—130E	14				1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3			1 14.3					7 100	10
	1 53	スマトラ西沿海岸	4—6N 90—94E	15					3 21.4	2 14.3	4 28.6		1 7.2	1 7.2	1 7.2	2 14.3				14 100	19
	5 54	セイロン	3—13N 72—94E	29			2 1.9	5 4.7	8 7.5	10 9.4	14 13.2	20 18.9	17 16.0	11 10.4	12 11.3	3 2.8	4 3.8			106 100	129
	1 4v	アラビア							1 2.6	6 15.4	10 25.6	16 41.0	3 7.7	2 5.1	1 2.6					39 100	43

鮪延縄の御注文は最新設備により製造する
當社に御紹介下さい……………

營業種目……クレモナ、綿延縄及仕立、漁具一式、救命筏

アサヒテツクスロープ株式会社

本　社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野 3978•7923番
出張所　神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地　電話 三浦 2957番

マグロ漁況概況豫報　（昭和34年5月）

神奈川県水試　遠洋資源係

1. 太平洋南東部漁場

マーケサスからガラパゴスに至る海域のキハダは、赤道から南緯5°迄の水帯が2.0南緯10°から15°迄の水帯は殆んど漁獲がありません。

メバチは緯度により異なり、赤道から南緯3°迄の水帯と、南緯5°以南の海域が2.0南緯3°から5°迄の水帯が3.0になります。

2. 太平洋北中部漁場

ミッドウエーから北緯30°線に沿つて東方に擴がる海域のメバチは、不漁で1.5になります。

3. 太平洋中央部漁場

北緯5°から13°迄の、マーシヤルからパルミラを経て西経140°に至る海域のメバチは、低下途上で、マーシヤル東方が1.5、180°からパルミラを経て140°に至る海域が2.0になります。

4. 太平洋南中部漁場

キハダは全般的に好漁で、ギルバート周辺が4.0, ギルバート南方とクリスマス東方が3.5, エリス、フエニツクス、トケラウ周辺からクリスマス南方にかけての海域が3.0マニヒキ北方が2.0、ハウランドからクリスマスにかけての海域が2.5になります。

ビンナガは、フイジーからサモア南方を経てタヒチに至る水帯が中程度の2.0, 他海域は全般的に好漁で、フエニツクス周辺が3.0, エリス、カントン、トケラウ、サモア周辺からソシエテ、マニヒキ周辺にかけての海域と、南緯20°から30°迄の海域が4.0になります。

5. 太平洋北西部漁場

メバチとビンナガは不漁で、殆んど漁獲がありません。

マカジキは先月より稍北上し、北緯25°から30°, 東経145°から170°の海域が好漁で0.5, メカジキは、伊豆諸島東方と、北緯20°から30°, 東経140°から160°の海域が好漁で、0.4になります。

6. 太平洋中西部漁場

北緯 5°から13°の間を東西に連なるメバチは、東経160°以西が不漁で1.0, 160°以東が中程度の1.5になります。

7. 太平洋南西部漁場

キハダは、赤道から北緯 5°迄の、ハルマヘラからギルバート西方に連なる海域が好漁で4.0, 赤道以南の東経170°以西は全般的に不漁で、赤道から南緯 5°の水帯と、さんご海南方からニユーヘヴリデス、ニユーカレドニアに至る海域が1.0, ソロモン周辺からクックタウン沖、ニユーヘヴリデスの北側にかけての海域が0.5になります。

ビンナガは、南緯10°から15°迄の水帯と、南緯22°から30°迄の水帯が3.5, 南緯 5°から10°迄の水帯が3.0, 南緯15°から22°迄の水帯が2.0になります。

クロカワは低下途上で2.0, シロカワ、マカジキは不漁で殆んど漁獲がありません。

8. 印度洋東部漁場

キハダは、アンダマンからジヤワ西南方にかけての海域が好漁で、北よりが3.0, 南よりが2.5, その他の海域は不漁で、バンダ、フロレス海が2.0, ジヤワ、小スンダ南岸沖合が1.5, 南緯10°以南が東よりで1.0, 西よりと南よりが0.5になります。

メバチは、ジヤワ西南方海域のみが好漁で2.0, アンダマンからニアス西方にかけての海域は殆んど漁獲がなく、ジヤワ、小スンダ南方沖合が0.3で、共に不漁です。

ビンナガは、南緯10°以南が好漁となり5.0, シロカワは、オーストラリアのギンバリーランド沖合が好漁で0.5, インドマグロとマカジキは不漁で、殆んど漁獲がありません。

9. 印度洋中、西部漁場

キハダは、ベンガル湾とアラビア海が好漁で 3.0, 赤道以南は東経 60°以西に多少残る程度で、全般的には不漁で1.0乃至2.0になります。

ビンナガは好漁期に入り、南緯10°以南が4.0, 赤道周辺でも1.0になります。

赤道以北のクロカワは、上昇途上で、ベンガル灣が0.3アラビア海が0.5になります

10. 大西洋漁場

キハダは、北緯 5°から10°, 東経30°から45°の海域が10.0近く、カリブ海が10.0以上で共に好漁、象牙、黄金海岸沖合は低下途上ですが、8.0程度でなお好漁、ブラジルのマラニヨン北方沖合と、レシフエ東方沖合は上昇途上で、4.0程度です。

レシフエ東方沖合のビンナガは不漁となり、1.5程度です。

Operating Conditions of Japanese Tuna long-line boats, sea currents & the fishing conditions of yellowfin and albacore in the equatorial waters of the Atlantic Ocean.

translation attached (a

大西洋赤道付近に於ける日本マグロ延縄漁船の稼動状況、海流、及びキハダ、ビンナガの漁況

神奈川県水産試験場

（高知市にて開催された1958年度マグロ漁業研究協議会にて要旨発表）

1. 緒　言

当場では、1956年度以降、試験船相模丸の海況観測資料と当業船の漁況資料をもとに、大西洋赤道付近のマグロ延縄漁船の稼動状況、海流、及びキハダ、ビンナガの分布と月変化について究明を加えてきたが、1958年度も終わり、多くの知見を得ることもできたので、ここに報告する。

猶、資料を提供下さった会社、船主、船長、漁撈長各位に対し、衷心より謝意を表する。

2. 資料及び方法

（イ）資　料

実操業船数と外国基地利用船数に関する資料は、各船の会社又は事務所より蒐集した稼動状況記録を用い、海流の流向と潮目に関する資料は、漁況資料と共に得られた当業船の延縄の漂流方向、相模丸の投入した海流瓶の漂流方向*、及び相模丸の海洋観測結果を用いた。又、1957年の稼動範囲、及びキハダ、ビンナガの分布と釣獲率の月変化に関する資料は、各船の漁撈日誌より転写蒐集してきた資料を用いた。

（ロ）方　法

月別実操業船数は、1つの月の中で1日でも操業していれば、1隻と数えた。

稼動範囲とキハダ、ビンナガの分布は、月別、緯、経度1度ます別の操業回数と釣獲率により調べた。

3. 表実操業船数の月変化

実操業船数の月変化は、表1に示すように、1956年7月から1957年1月迄は1．2隻であったが、1957年1月から同年10月迄は急激に増加し、同年12月にかけて一旦減少した後、1959年1月にかけて、1957年1月から10月の間よりゆるやかではあるが、増加をたどっている。

表 1　実操業船数の月変化

MONTH

年＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1956							1	1	1	1	2	2
1957	3	4	6	8	11	11	13	15	18	20	19	16
1958	17	18	19	19	21	25	25	25	29	28	29	31
1959	30											

4. 1957年の操業範囲の月変化

1957年の操業範囲は、先ず、4月迄、アフリカのリベリア、象牙海岸、黄金海岸の各沖合と、ブラジルのナタール、パラナイバの各沖合に散在して操業し、5～7月には各漁場毎に次第にひろがったが、8～10月には赤道の直ぐ北側に東西に帯状となり、同時に、象牙海岸沖にあった主操業範囲が、5～10月の間に、リベリア沖に移動し、11～12月にはフォールタレーザ沖とリベリア沖に集中した。

5. 外国基地の年別、出入港別利用船数

外国各基地の年別、操業から、又は操業への出入港別利用船数は表2に示すが、この表から次のことが考えられる。

---

*鮪漁業第55号誌参照

表 2　外国各基地の年別、出入港別利用船数

		入		出	
	YEAR	'57	'58	'57	'58
カサブランカ（モロッコ）	Casablanca	1	0	0	0
ハイファ（イスラエル）	Haifa	0	1	0	1
フューメ（ユーゴースラヴィア）	Fiume	0	1	0	0
トリエステ（〃）	Trieste	0	0	2	2
ヴェニス（〃）	Venice	15	21	16	16
アンコナ（〃）	Ancona	1	1	0	3
バリ（イタリア東岸）	Bari	1	3	1	0
ファビニアナ（〃）	Fabignana	1	0	1	0
トラパニ（〃）	Trpani	2	8	1	4
パレルモ（〃）	Palermo	3	5	0	3
メッシナ（イタリアシシリイ島）	Messina	1	0	2	1
ナポリ（〃）	Napori	1	2	2	4
リヴォルノ（〃）	Livorno	3	1	3	1
ジェノア（イタリア西岸）	Genoa	1	0	2	4
サントス（〃）	Santos	0	5	0	5
リオ・デ・ジャネイロ（〃）	Rio de Janeiro	2	6	0	8
サン・サルバドル（〃）	Sao Salvador	5	6	3	2
マシエイオ（〃）	Maceio	2	1	0	1
レシフエ（〃）	Recife	18	26	25	33
ナタール（〃）	Natal	4	3	0	0
フォールタレーザ（〃）	Fortaleza	0	1	1	1
ベレム（ブラジル）	Belem	1	0	0	0
ポート・オブ・スペイン（トリニダット）	Port of Spain	0	7	0	7
サン・ファン（プエルトリコ）	San Juan	0	0	0	1
ポート・オ・プリンス（ハイチ）	Port au Prince	0	10	0	8
クリストバル（パナマ）	Cristobal	2	15	2	14
ハバナ（キューバ）	Habana	2	6	2	6

① アメリカに輸出するための基地であるクリストバルと西印度諸島、及び、トリニダッドのポート・オブ・スペイン、ブラジル東岸のリオ・デ・ジャネイロとサントス、シシリー島のパレルモ、トラパニの利用船数は1957年に比し、1958年が非常に多くなっている。

② ブラジルのレシフェとイタリーのヴェニスは、他基地に比較し、1957、1958の両年ともとびぬけて多く、二大利用基地となっている。

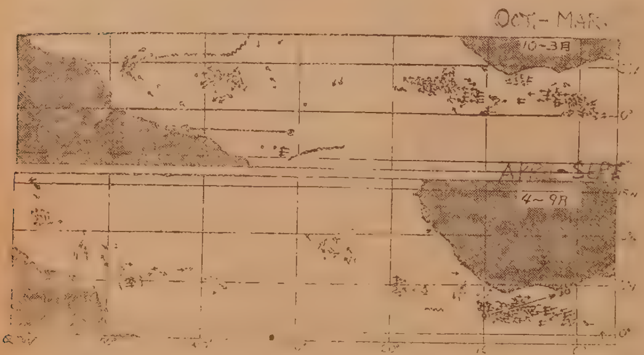


図 1　大西洋赤道付近の海流の季節別分布

〰 水温垂直分布より推定される潮目　⊙ 海流瓶投入位置
● 海流瓶拾得位置　←— 流向を示す

③ イタリー西岸のジェノア、ナポリとシシリー島のパレルモ、トラパニは、操業からの入港船数と操業への出港船数との間に差がみられ、ジェノアとナポリは後者が多く、パレルモ、トラパニは前者が多い。これは、パレルモ、トラパニが缶詰工場を有するが漁業基地ではないので、両港で水揚げした各船は、ジェノア、ナポリに回港して仕込みをし、出港するためである。

6. 海　流

季節別の海流は図 1 に示すが、この図から次のようなことが推定される。

(1) 30°W以西の海域

① 1~2月頃、6°N付近に東西に連る潮目のあることが推定される。

② この潮目の北側が東流（赤道反流）、南側が西流（南赤道流）であり、この西側のカイエンヌ沖には西から東に転ずる流れがみられる。

③ 上述の潮目は、4~9月には4°N以南に南下するものと推定される。

④ 西流はブラジル北岸に沿って北西に転じ、東流はサンタルシア島

付近から南東流として出現している。

(2)　20～30Wの海域

① 1～2月頃、4°S付近に東西に連る潮目のあることが推定される。

② この潮目の北側には西流（南赤道流）がみられる。

③ 4～9月、8°N、26°W付近には、東側に北乃至北西流、西側に東乃至南東流がみられる。

(3)　20°W以東の海域

① 象牙海岸沖では、10～3月に、西流と東流が正面より当り東流は黄金海岸沖で再び出現している。又、西流はリベリア沿岸にもみられる。

② 4～9月には、象牙海岸沖の3°N付近に東西に連る潮目があり、北側は東流（ギネア海流）、南側は西流（南赤道流）がみられる。

③ 又、10～20°Wでは2°30′N付近に潮目があり、北側に東流（赤道反流）がみられる。

7.　キハダとビンナガの季節別分布

キハダとビンナガの季節別分布は図2に示す。

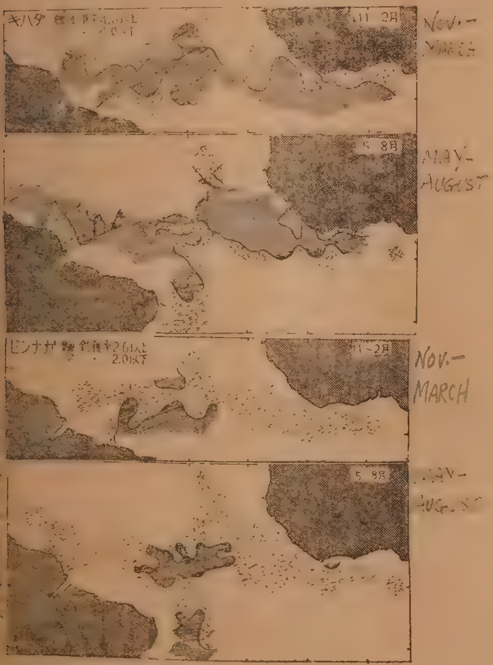


図 2　大西洋赤道付近に於けるキハダ、ビンナガの季節別分布

この図から明らかなように、キハダは、30°W以西に於いては、好漁海域が11～2月に狭く、5～8月に広く、30°W以東に於いては、好漁海域が11～2月南、5～8月に北へ移動し、太陽と同じ回帰をたどっている。

従って、この分布を海流域と対照させると、好漁海域は、11～2月には南赤道流域に、5～8月には、30°W以西が赤道反流域と南赤道流域に、30°W以東が赤道反流とその北東側の北西流域にかけて分布している。

ビンナガは、7°N付近と赤道以南周辺の、遊離した2つの好漁海域がみられ、11～2月に北、5～8月に南に移動し、太陽と逆の回帰をたどっている。

8.　キハダとビンナガの釣獲率の月変化

キハダとビンナガの海区（表3）別釣獲率の月変化は表4のようになり、図2の分布の変化と一致する。

表 3　大西洋赤道付近の海区とその記号

A	5°N以北、50°W以西
B	〃　、30°～50°W
C	〃　、10°～30°W
D	5°N～5°S、30°W以西
E	〃　、10°～30°W
F	〃　、10°W以東
G	55°S以南、30°W以西
H	〃　、10°～30°W
I	〃　、10°W以東

即ち、西よりのキハダに於いては、好漁海域のひろがる6～8月には海区D、Eと共に海区A、B、G、Hも好漁で、狭くなる1～3月には海区D、Eのみが好漁であり、東よりのキハダに於いては、好漁海域が北に移動した6～8月には海区Cが好漁、南に移動した1～3月には海区F、Iが好漁である。

ビンナガについては、海区D、G、Hが、南の好漁海域の北上する12～2月に好漁となり、他海域はそれ程好漁とはならない。但し、7°N付近の好漁海域の北上する12～2月には海区A、Bが、南下する7～9月には海区B、Cが、それぞれ稍高率となっている。

（永井、中込、小林、下里記）

表 4　大西洋赤道付近のキハダとビンナガの海区別月変化（上段キハダ、下段ビンナガ）

海区＼年月	1957 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1958 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1959 1
A									3.4 1.2							8.6 1.2	10.3 0.7	11.6 1.8		13.4 0.7	7.4 1.4			
B					6.3 1.3	5.3 0.7	7.0 2.2	12.7 1.3	7.6 0.7	6.2 1.0	4.1 1.3	4.9 1.6					5.8 0.1	11.2 0.4	7.6 0.9	10.2 0.4	7.4 1.3			
C						5.3 0.4	10.3 1.2	5.8 0.9	5.3 0.7	3.0 0.0							7.6 0.3	13.8 0.5			6.4 0.1		5.6 0.0	5.1 0.6
D			4.4 3.7	9.8 1.8	7.2 1.6	7.6 1.5	4.9 1.4		6.1 0.7	7.0 1.2	5.3 1.8	7.3 6.4				3.6 0.2	4.1 2.5	6.8 2.0	5.8 1.4	5.0 2.2	8.9 1.3			
E	5.2 2.2	11.4 0.0	9.7 1.8	7.8 1.4	6.0 1.3	7.0 0.1	11.4 0.8	8.1 0.9	6.0 0.8	7.1 0.7	6.9 0.9	8.1 0.6	5.9 0.5	3.7 0.3		7.0 0.2							6.3 0.8	6.4 1.5
F	12.5 0.3	12.7 1.6	8.7 0.3	11.3 0.4	10.3 0.3	10.9 0.2	9.9 0.5	8.3 0.2	7.9 0.1		4.9 0.1	12.4 0.1	15.2 0.4	13.9 0.4	11.6 0.9	7.0 0.6								
G				5.0 2.3	5.8 2.2												1.1 4.2	2.4 2.1						
H				4.9 2.1																				
I											10.1 0.4			17.6 0.7										

（続）素人の観た三崎港

岩吉松之助

5. 油壺

油壺の東大農学部臨海実験所付属水族館は数回訪れたことがあるから特に珍らしいと感ずることもなかった。Iさん、I技師、私の三人は海水浴客が沢山集まっている海辺を眺めてボンヤリしているうちに、同行の女性たちは水族館を見るのは始めての人達ばかりで、一同揃って水族館のなかに吸われて行った。

油壺の名称は何から起ったのか、どんなに風の烈しいときでも、この入江に這入ると、浪は静まっているところから油でも流したように静かであるとして油壺と名付けるのだろうと言うのが一般的な考え方である。地名と言うものは同じ地名が日本中には二、三は必ずあるが油壺と言う名称はここだけのようである。九州には浪静かな油津港があるが現在では日南市と名称を変えて了っている。

油壺はいつまでも、三崎、城ヶ島とともに名称を変えずにそのまま保存したいものである。昔、三崎の城主であった三浦氏が小田原の北条氏に攻められて戦いに敗れ、降伏することを欲しなかった将兵が城主とともにこの海で自決したとき、流れる血潮が海一面を紅く彩り、血脂が浪に浮き今まで荒れていた海が油を流したように静かになったことから油壺の名称が生れたとも言う。その何れであるとしても、油壺は、いつも静かである。ガラス板を碧く積みかさねて、その上を静かに舟は滑って行く。帝国海軍が華かであったころ、荒天の折りは、駆逐艦がこの入江に待避し、又は、敵機の攻撃を避けてこのなかに姿を隠すこともあった由である。要塞地帯のベェールをぬぐと、特殊潜水艇らしいものの残骸が、数隻あったそうである。果してそうであったかどうか、今日では、三浦氏と北条氏の戦いとともに帝国海軍の話も遠い昔の伝説となっている。

6. 漁港

（昭和33年の夏）

三崎魚市場前の岸壁には鮪船が折り重なって入港している。同行のNさんは鮪船を見て、何処の外国航路かと言った。客船と間違えたらしいが、よく考えると、外国航路であることには相違がない。鮪船は遠く南方諸海域から、印度、大西洋まで出漁出航するのだから成る程、外国航路である。入航したばかりの船が大漁旗を風になびかせているのは観艦式のように美しい。漁船と言えば二人か三人、せいぜい大勢でも十人位乗れる船を想像していたNさんは、三崎と漁船、雨と釣竿などの情景から、俳句でも出ることを予期していたらしいが、海を圧する機械文明のすさまじい気迫にけおされて俳句は出ないらしく、墨筆を写真機に配置転換してしきりとシャッターを切っていた。Nさんは、山梨県の産であった。

7. 城ヶ島と白秋記念碑

渡船に乗って城ヶ島に渡る。灯台と奇岩が重複している裏城ヶ島を見るか、それとも白秋の碑を見るかと、一行が最も希望しているところに行こうとIさんから質問を受けたが、風が強いばかりか、埋立海岸の砂埃が濛々と吹きまくっているのに恐れをなした私とIさんは、風を避けて、白秋記念碑の方に足を向けることにした。Nさんも、Kさんも城ヶ島は初めてだから、何処に案内されてもどうでもよいと言った顔をしてIさんのあとに従っている。私は、昨年灯台を訪れたから、今回は白秋の記念碑を訪ねるのが目先が変って有難いが、一行はどちらかと言えば灯台を案内するのがよかったのかも解らぬ。歌人白秋を偲ぶのも情趣のあることで、殊に俳句をよむNさん、絵画をよくするKさんは、灯台などを見るよりも、白秋の碑がよいとのことでもあったから、見物はここがよいことにした。併しながら実際は石碑などを見せるよりも、裏城ヶ島の景色の方が数倍も増して詩歌的であり、絵画的であるのにと、内心は人を欺ましているようで気の毒であった。

沿岸漁に使用する網がほしてあったり、鯵や鯖の干物を並べてあるので異臭がプンプンと鼻を突く海岸の岩角を船虫が這い廻わり、ぬるぬるとわかめが砂の上に手足を伸ばしてグロッキーになっているなかを、やどかり虫が右足、左足を交互にあげてなぎなたを打ち振る姿は法界坊よろしく、人手が赤い指を前後左右に拡げているのは海の魔法使いかとも思われるあたりを一行は足並を揃えて記念碑の方に向った。

白秋の碑は、海岸浪打際の岩の上に立てられている帆の形をした一枚の天然石である。対岸から見ると海坊主のように見えるのも頭でっかちの形のためだろう

か、碑の高さは人間の立っている姿の倍位はあろう。例の有名な、雨は降るふる城ヶ島……の歌が小野鵞堂流の柔かい優しい文字で流れるように刻んである。誰れの悪戯なのか、文字のところどころを、鉄材の錆止めに使用する赤い塗料で塗り潰してあるのが痛々しい。おそらく鉄橋工事の人夫のつれづれのままの悪戯かと思われるが、巨大な組立中の鉄材の赤い色と、同じ色をしているのでそう思われても仕方あるまいと思った。シンナーで拭き取ると一通りは綺麗になるだろうが、溶剤と染料が岩の肌にしみ込んで、猿の尻のようにペッタリと赤くなるかも解らぬし、さりとてそのままにして置くと、白秋の顔一面に吹き出ものが出ているようで、付近の茶店に売っている白秋の写真までが汚く見える。

茶店に二人の、老婆と言うには未だ年の若い漁師らしい婦人が、とまを立てて、日除けにし、絵葉書、詩歌入りの手拭、湯で玉子、魚の干物、さざえなどを売っている。碑をうしろに写真を撮るべく、Nさんが写真機を持ち、IさんとKさんそれに私の三人が立ち並ぶと、茶店の床几台に腰をおろしていた一人の茶店の女が、私が写真をとって上げましょう、レンズをあわせて下さい。写っても写らなくても責任は持ちません。パチリだけやりましょう。パチリやっても土産物を買えとは言いません。買って下さると有難いことは言うまでもありません。と、滔々と雄弁を振い始めた。強奪するように写真機を取りあげられたNさんが呆然としていると、彼女は慣れたもので、シャッターを切る手付きはアマチュウァ以上のものがあった。

彼女は、白秋先生がここにいたときは、私は子供のころで毎日遊んで頂きました。先生はよく散歩していました。ここいらまでは信用できるが、茶店のすぐ傍にある防空壕の残骸らしい穴のあとを指さし、先生はこの洞穴のなかで修行されたのですと言う、洞穴は大人が一人這入ると身動きもならぬ小さなもので、洞穴と言うよりも塵芥を溜める穴と言った方が解り易い程度のものである。白秋を修験者かなにかのように、それとも僧侶に見立てるのか、鎌倉に伝わる護良親王の捕われの洞窟か何かのように神秘化して了おうとする彼女等は、そのうち塵芥溜めの上に注連縄でも張りめぐらすのではなかろうかと思った。こうなると城ヶ島の詩歌が、詩歌変じて経文になるのではあるまいか、まさに南無阿弥陀仏である。　（本稿終了）

能率的な航海は
信頼出来る計器で

スペリー式
マリン・レーダー
マリン・ロラン

株式会社東京計器製造所
本社工場　東京都大田区東蒲田4の31　電話（73）2211～9
出張所及びサービス ステーション　神戸・函館・長崎・横浜　名古屋・下関

おとぎばなし
まえだひろし

ウミガメに助けられた話

カメは昔から縁起のよい動物といわれ、今でも漁師の間ではカメが網にかかるとお酒を飲ませて海へはなしてやります。こうすると大漁になると信じられているからです。

昔、下関の伊崎というところにウミガメつきの名人がいました。ウミガメをモリでついて捕り、商売している漁師です。いまではほとんどいませんが昔は荒々しい職業とされていました。

彼には二人の男の子がいました。

兄は父親と一しょにウミガメをとっていましたが、弟の方はそんなかわいそうなことは出来ないと、釣をして暮していました。

ある天気のよい日、弟は六連（むつれ）の沖から藍島（あいのしま）まで舟を出して釣をしていましたが、突然、嵐となってずんずん沖へ流されてしまいました。おまけに櫓は折れ、日もとっぷり暮れて、舟は波まかせ、弟はもう駄目か……と観念したその時、にわかに舟は浅瀬にのり上げました。

「ああ、助かった！岩にあがったのだ」弟はほっとして岩に上ったままナギになるのを待っていました。ところが舟は岩のまま少しずつ動いているではありませんか、

「はてはて、不思議なこともあるものだ」弟はひょいと舟の下をのぞいてびっくり仰天。岩だと思ったのは大きな大きなウミガメの背中だったのです。ウミガメが助けてくれたのでした。カメに助けられた弟はそれからも細々と釣をしながら平和に暮しましたが、兄の方はまもなく病気になり家中を「カメさん、カメさん」と叫びながらはいまわって死んだということです。

異説『浦島太郎』

下関市から10Kばかり離れた山陰の半農半漁の町、安岡には有名なおとぎ話『浦島太郎』と『酒天童子』を一しょにしたような話が伝わっています。浦島太郎に助けられたカメは何のために陸へ上ってきたかはっきりしませんが、ここでは塩浜の住吉さまのお祭りに龍宮城の乙姫さまのいいつけで金の玉銀の玉をみがきにきたということになっています。

昔、昔、大昔のある年、玉をみがきにきたカメが帰りがけに里の子供たちに捕って頭を叩かれたり石をぶっつけられたりひどい目にあっていました。そこへ通りかかった童子丸はかわいそうに思って子供たちに金をやってカメを海へはなしてやりました。

「さあ、気をつけてお帰り」

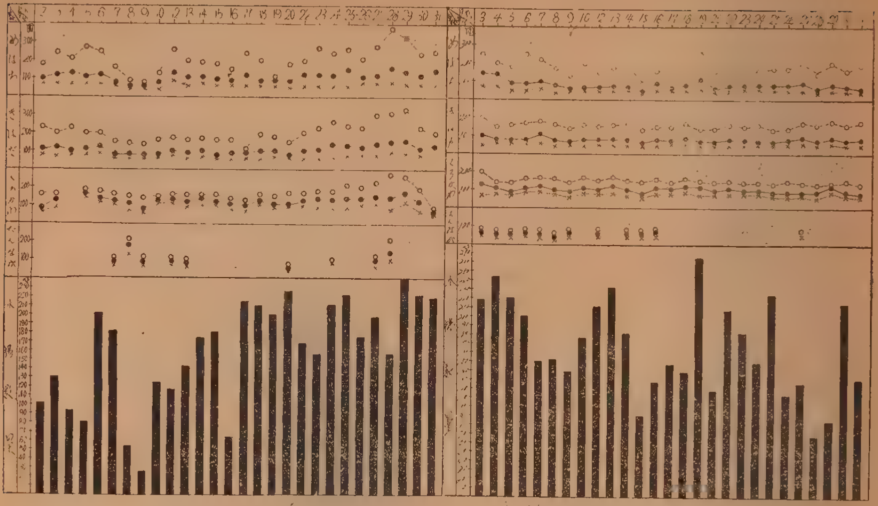
カメはうれしそうに幾度も幾度も頭を下げていましたがくるりと背中をむけると童子丸に乗れといいます。そうして彼をのせたカメは龍宮城へと案内していきました。

乙姫さまの大歓迎で連日飲めや歌えやで過ぎました。すっかり遊び暮した童子丸は帰ることにしましたが、乙姫さまは名残りをおしんで二つの不思議なものをくださいました。

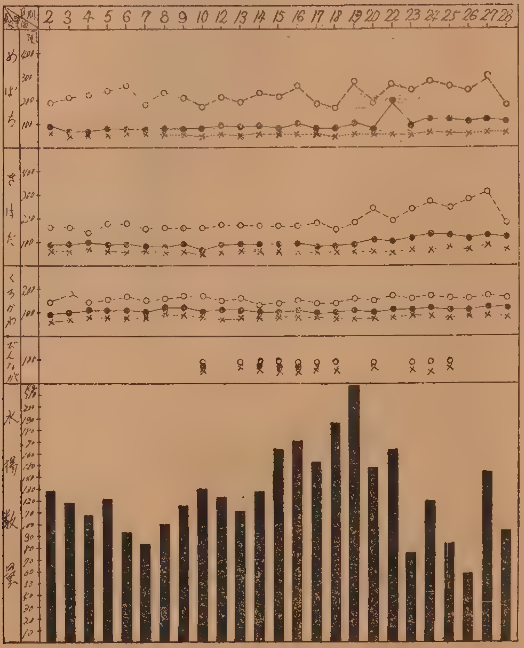
その一つは十里四方が手にとるようにみえる眼鏡もう一つは鳥の話をききわけられる手箱でした。帰りついた童子丸はもといた家も人もなく、すっかり変った村の有様にいまさらながら龍宮ですごした年月の長かったことに驚くばかり……。所在なく不思議なメガネで都の方をみると都では天子さまが大病にかかってどんな名医とてもなおらぬばかりか日に日に衰弱していかれる御様子。童子丸は不思議な力をもったメガネと箱をもってすればきっと御病気の原因がわかろうとこれらを大事に持って都へ上りました。わけを話して天子さまのお部屋に入りますとカゴの小鳥が

「わるい鬼の仕わざです。鬼を退治すると病はおなおりになります」とさえづっているのを手箱を通してきくことが出来ました。そこでメガネを出して鬼のありかを見つけ、小鳥の声をききながらとうとう大江山へ多勢の兵隊を連れていくことが出来、ふいをうたれた鬼共がかくれるのをかたっぱしからみつけて一匹のこらず退治することが出来ました。天子さまはすっかりお元気になられ、童子丸は沢山の御ほうびを頂いて生涯何不自由なく暮しましたとサ。

鮪類水揚価格表（三崎）



昭和三十三年十二月　　昭和三十四年一月



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十四年二月

本會圖書誌の分譲其の他について

◎ 本会發行の圖書誌を分譲致しておりますからお申込下さい。

會　誌　「鮪漁業」　才6－57号（才1－5号　品切）｛才6-28号100円郵送料16円 才29-57号各150円

鮪類水揚地調査報告（自昭和27年5月　至昭和28年4月）
1部　300円　（B5判150頁）　郵送料　24円

鮪類水揚地調査報告（自昭和28年5月　至昭和29年3月）
1部　400円　（B5判226頁）　郵送料　40円

鮪類水揚地調査報告（自昭和29年4月　至昭和30年3月）
1部　300円（送料を含む）（B5判126頁）

鮪類水揚地調査報告（自昭和30年4月　至昭和31年3月）
1部　400円（送料を含む）（B5判135頁）

鮪漁船操業圖（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
1枚　50円　郵送料　8円

鮪漁場図（32海區割に表示したもの）
10枚　100円　郵送料　16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他寫眞をお願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に 会誌送料 200 円）を添えて研究会宛お申込下さい。

◎本誌に廣告掲載希望の方は、本会伊藤専務理事迄お申込下さい。

◎大變恐縮ですが昭和32年分33年分會費（一ヶ年分1,700円）未納の方は本會宛至急拂込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。　尙整理の都合もあり會費切れの向には一時會誌の送本を中止することに致しますからお含み願いあげます。

◎昭和31年度版鮪類水揚地調査報告が出來上つております。殘部僅少でありますが御希望の向はお申込下さい。定價1部400円但し既刊の昭和28年.29年.30年度分と一括購入の場合は4册特價1,100円（送料共）

鮪　漁　業

1958年4月号

昭和34年4月10日印刷
昭和34年4月10日發行
監　修　神奈川縣水産試験場調査部
編集兼發行人　菅野　進
神奈川縣三浦市　神奈川県水産試験場内
發行所　鮪漁業研究会

鋼木船造修一般

500噸 船 台 三 基

起重機 10噸・5噸各一基

三崎船舶工業株式会社

本社　東京都中央区西八丁堀2の10
電話築地(55) 966 15
工場　神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446
電話(三浦) 2880・2934・2343

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空氣凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷藏
設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本　社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話　東京(866) 0996・0997番

◇新時代の冷凍機◇

（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

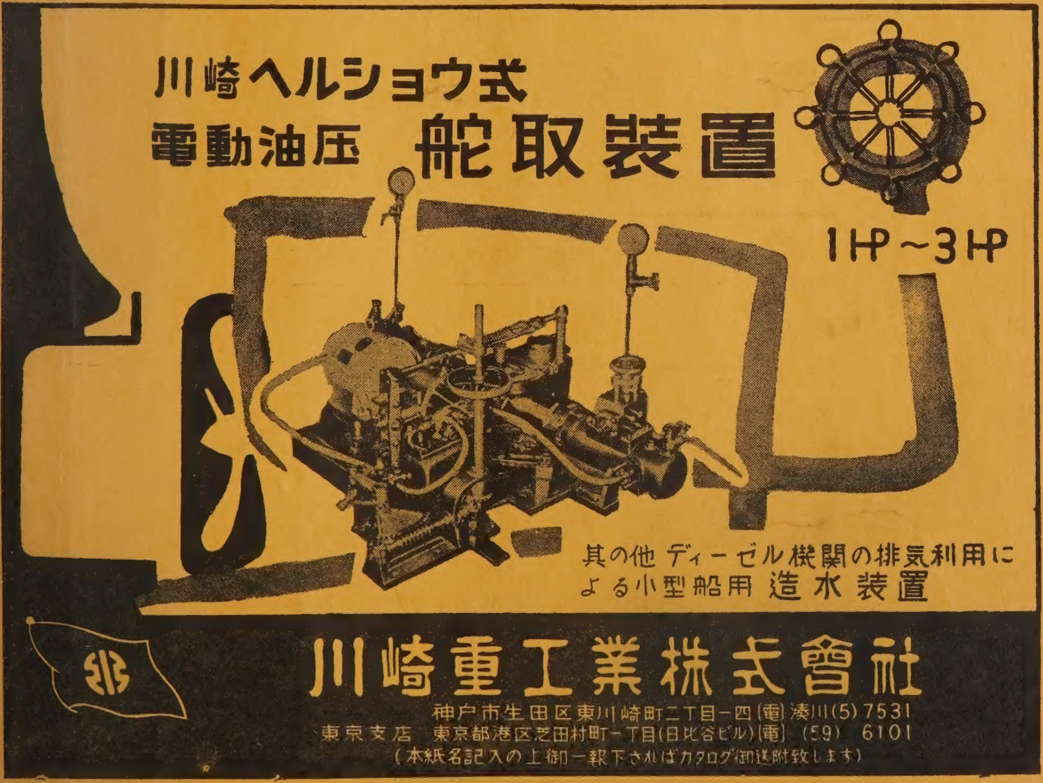
（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

設計・製作・施工

株式会社　東洋製作所

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）代表2171―9番（49）2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話（36）代表0974―5（36）2171―9（内線350―1）



川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

1HP～3HP

其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

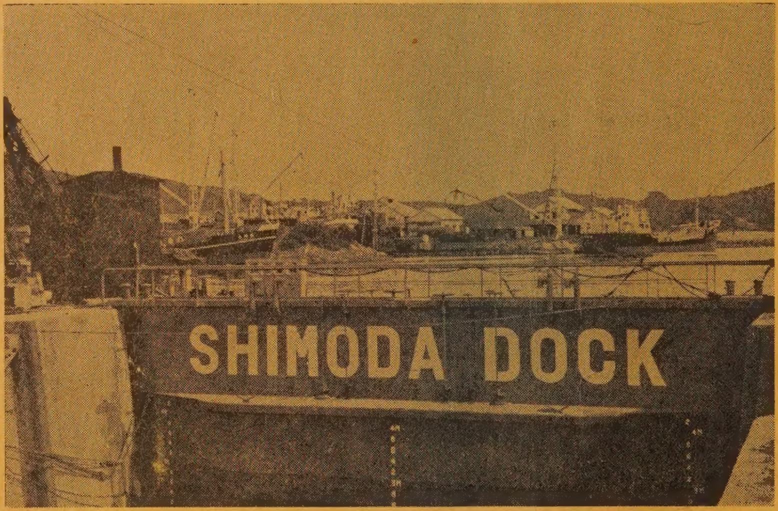
川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四〔電〕湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)〔電〕(59) 6101
（本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します）

800屯ドライドック完成

船渠	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ（垂線間）	幅（型）	吃水（平均汐高線1.7米に於て）	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800 屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500 屯	2
		2条軌条式	50 米	250 屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4―4 畜産会館1階　電話東京(54)9270(直通),4121 (代表)―2

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業　第五十七号　昭和三十四年四月十日発行　（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可